

# 平安京左京六条一坊七町跡

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告  
二〇一七―五

平安京左京六条一坊七町跡

2017年

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

公益財団法人  
京都市埋蔵文化財研究所



# 平安京左京六条一坊七町跡

2017年

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所



# 序 文

京都市内には、いにしへの都平安京をはじめとして、数多くの埋蔵文化財包蔵地（遺跡）が点在しています。平安京以前にさかのぼる遺跡及び平安京建都以来、今日に至るまで営々と生活が営まれ、各時代の生活跡が連綿と重なりあっています。このように地中に埋もれた埋蔵文化財（遺跡）は、過去の京都の姿をうかびあがらせてくれます。

公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所は、遺跡の発掘調査をとおして京都の歴史の解明に取り組んでいます。その調査成果を市民の皆様に広く公開し、活用していただけるよう努めていくことが責務と考えています。現地説明会の開催、写真展や遺跡めぐり、京都市考古資料館での展示公開、小中学校での出前授業、ホームページでの情報公開などを積極的に進めているところです。

このたび、ホテル建設に伴う平安京跡の発掘調査について調査成果を報告いたします。本報告の内容につきましてお気づきのことがございましたら、ご教示賜りますようお願い申し上げます。

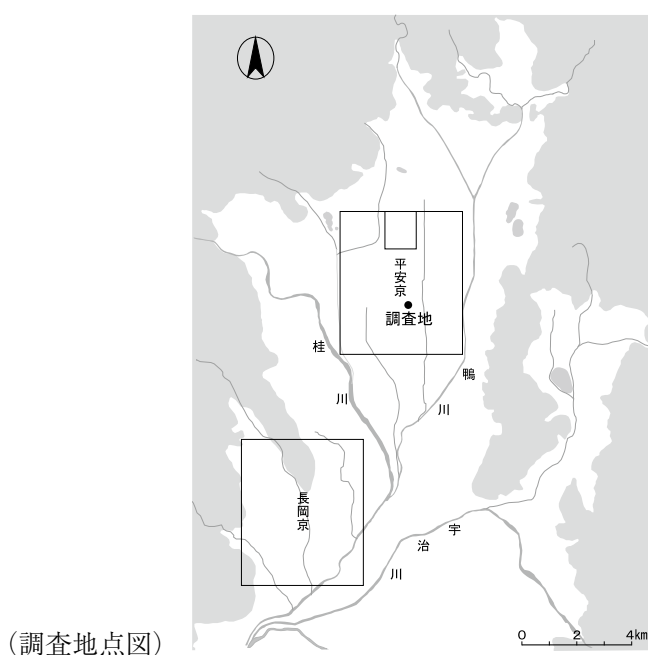
末尾になりましたが、当調査に際しまして多くのご協力とご支援を賜りました多くの関係各位に厚く感謝し、御礼を申し上げます。

平成29年11月

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所  
所 長 井 上 満 郎

# 例 言

- |          |   |
|----------|---|
| 1 遺 跡 名  | 平安京跡（京都市番号 16H541）                        |
| 2 調査所在地  | 京都市下京区中堂寺壬生川町33番地                         |
| 3 委 託 者  | サムティ株式会社 代表取締役社長 江口和志                     |
| 4 調査期間   | 2017年5月8日～2017年6月9日                       |
| 5 調査面積   | 376㎡                                      |
| 6 調査担当者  | 李 銀眞                                      |
| 7 使用地図   | 京都市発行の都市計画基本図（縮尺1：2,500）「島原」を参考にし、作成した。   |
| 8 使用測地系  | 世界測地系 平面直角座標系Ⅵ（ただし、単位（m）を省略した）            |
| 9 使用標高   | T.P.：東京湾平均海面高度                            |
| 10 使用土色名 | 農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版 標準土色帖』に準じた。         |
| 11 遺構番号  | 通し番号を付し、遺構の種類を前に付けた。                      |
| 12 遺物番号  | 通し番号を付し、写真番号も同一とした。                       |
| 13 本書作成  | 李 銀眞                                      |
| 14 備 考   | 上記以外に調査・整理ならびに本書作成には、調査業務職員及び資料業務職員があたった。 |



(調査地点図)

# 目 次

1. 調査経過	1
2. 位置と環境	3
(1) 歴史的環境	3
(2) 既往の調査	3
3. 遺 構	6
(1) 基本層序	6
(2) 遺構の概要	6
(3) 1区	9
(4) 2区	9
4. 遺 物	12
(1) 遺物の概要	12
(2) 土器類	12
(3) その他の遺物	18
5. ま と め	19

# 図 版 目 次

図版1	遺構	1	1区全景（西から）
		2	1区土坑4（西から）
		3	1区土坑4遺物出土状況（西から）
図版2	遺構	1	2区全景（北から）
		2	2区東西セクション（北東から）
図版3	遺物		土坑4・8、土取り穴16出土土器

# 挿 図 目 次

図1	調査位置図（1：2,500）	1
図2	調査区配置図（1：500）	2

図3	調査前全景（南から）	2
図4	作業風景（北東から）	2
図5	周辺調査位置図（1：5,000）	5
図6	1区西壁・南壁断面図（1：80）	6
図7	2区西壁・南壁断面図（1：80）	7
図8	1区・2区平面図（1：200）	8
図9	土坑4実測図（1：40）	9
図10	土坑8実測図（1：40）	9
図11	2区南北・東西セクション断面図（1：80）	10
図12	土坑4・8出土土器実測図（1：4）	13
図13	土取り穴出土弥生土器実測図（1：4）	14
図14	土取り穴16出土土器実測図（1：4）	15
図15	土取り穴17出土土器実測図（1：4）	16
図16	土取り穴18出土土器実測図（1：4）	17
図17	土取り穴19出土土器実測図（1：4）	18
図18	その他の遺物拓影及び実測図（1：4）	18
図19	『京都市明細図』の調査地（1：1,000）	19

## 表 目 次

表1	周辺調査一覧表	4
表2	遺構概要表	6
表3	遺物概要表	12

## 付 表 目 次

付表1	出土土器類観察表	21
-----	----------	----



# 平安京左京六条一坊七町跡

## 1. 調査経過

今回の調査は京都市下京区中堂寺壬生川町におけるホテル建設計画に伴うものである。調査地は京都市下京区中堂寺壬生川町33番地に所在しており、周辺を住宅・店舗などに囲まれた市街地で、南側は五条通に面している。発掘調査に先立ち、京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課（以下「文化財保護課」という）によって試掘調査が実施され、鎌倉時代の遺構が検出された。これを受けて文化財保護課はホテル建設計画者に対し埋蔵文化財調査の指導を行い、公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所が委託を受け、発掘調査を実施することとなった。

調査区は、文化財保護課の指導の下、建設予定地と試掘調査成果を考慮して、2箇所を設定した。北東側を1区、南西側を2区とした。調査面積は、1区100㎡、2区276㎡、総計376㎡である。

本調査は、2017年5月8日に開始した。1区から重機による表土の掘削後、人力により遺構を検出・掘り下げ、実測図の作成、写真撮影などの記録作業を行った。遺構は全て基盤層上で検出した。2区は1区の調査と並行して重機掘削を開始し、1区と同様、調査を進めた。2017年6月8日から重機で埋め戻し、翌日に機材・物品の整理・搬出を行い、6月9日に現場作業を終了した。調査中は適宜、文化財保護課の臨検・指導を受けた。

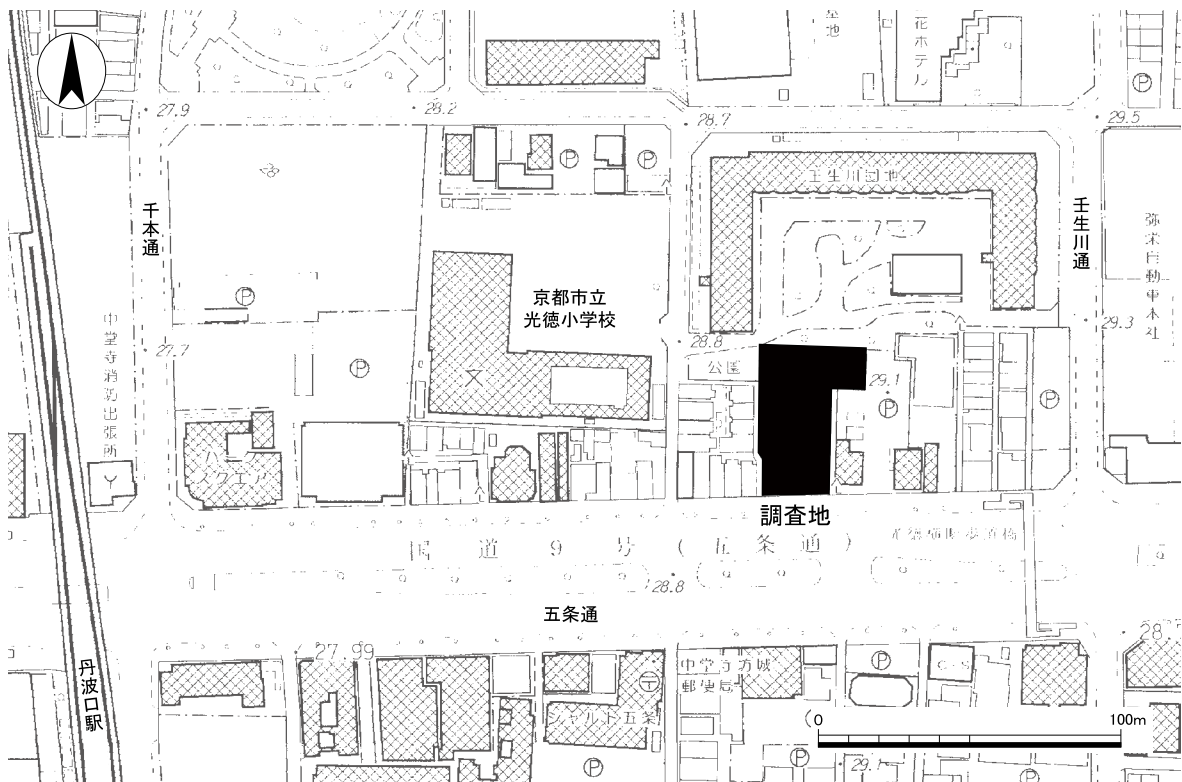


図1 調査位置図 (1 : 2,500)

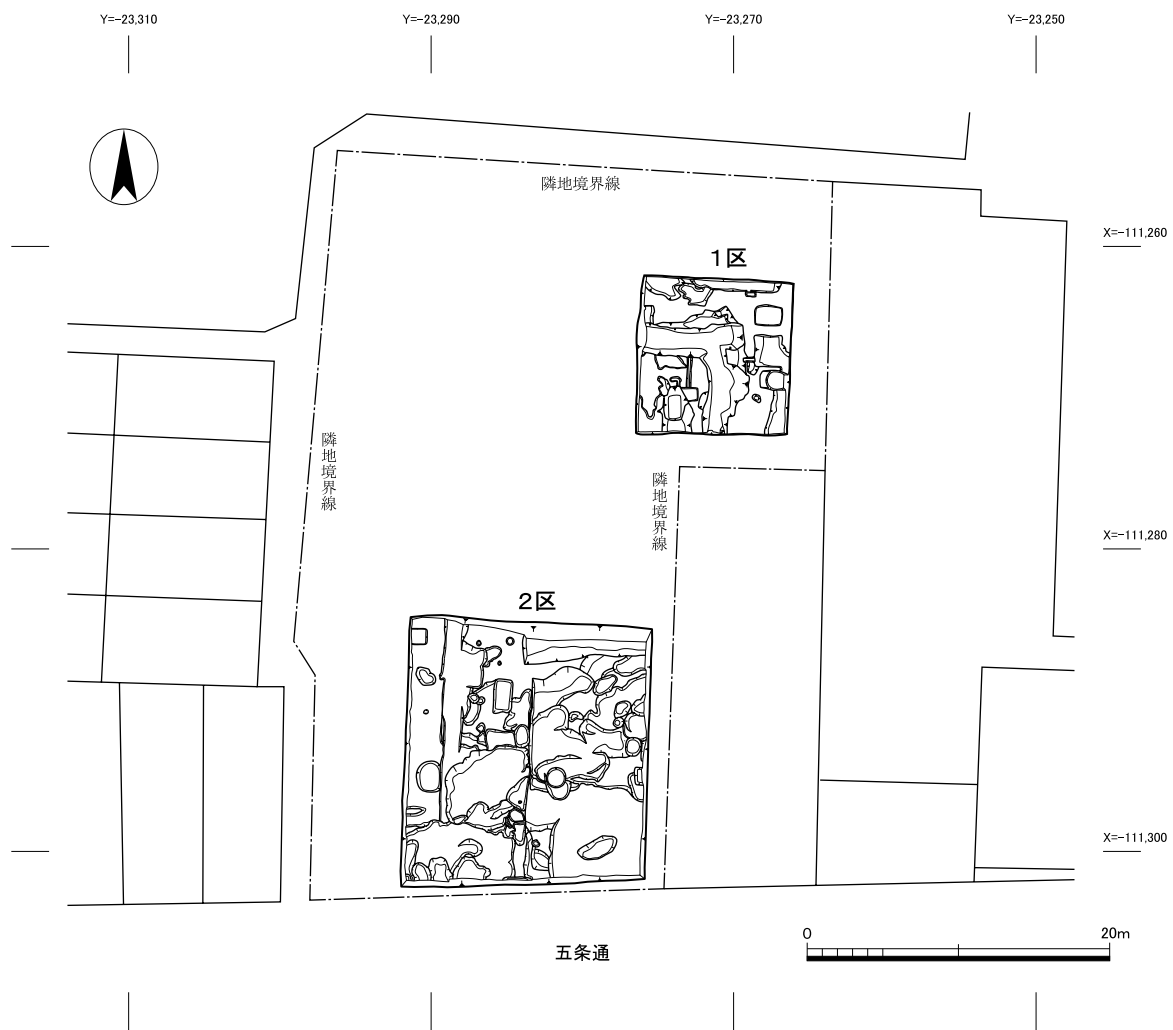


図2 調査区配置図 (1 : 500)



図3 調査前全景 (南から)



図4 作業風景 (北東から)

## 2. 位置と環境

### (1) 歴史的環境

調査地は、京都市遺跡地図<sup>1)</sup>では、縄文時代の遺物散布地の坊城町遺跡に当たるが、縄文時代晩期の土器が散見されるのみで、その様相は不明である<sup>2)</sup>。

平安時代には、平安京の造営に伴って、調査地は北側を樋口小路、西側を坊城小路、南側を六条坊門小路、東側を壬生大路に画された平安京左京六条一坊七町の南西部に位置することになる。この付近は貴族の大規模な邸宅は存在しなかったようである<sup>3)</sup>。

平安時代後期から鎌倉時代初頭には、左京六条域で白河天皇による再開発が行われる<sup>4)</sup>。承保三年(1076)に白河院の六条内裏の造営、寛治元年(1087)に六条院(中院)を院御所として利用することが契機となり、朱雀大路を挟んだ右京域にも影響を与えたと考えられている<sup>5)</sup>。ところが、治承元年(1177)と治承二年(1178)のたて続けに起こった二度の火災で、この付近の大部分が焼失し、その後は宅地としての利用が見られなくなり、耕作地化していたようである<sup>6)</sup>。

幕末以降は、洛中で消費される野菜を栽培したことが知られている<sup>7)</sup>。調査地周辺は、昭和2年(1926)頃に発行された『京都市明細図』<sup>8)</sup>では、土地が区画され建物の立ち並ぶ様子が確認できる。

### (2) 既往の調査(図5、表1)

調査地が位置する左京六条一坊七町での発掘調査例はないが、左京六条一坊周辺では数回調査が実施されており、朱雀大路を始めとして壬生大路、樋口小路・坊城小路・六条坊門小路の条坊道路が検出されている。その調査成果を表1にまとめ、図5に調査地点を記した。ここではその主な調査成果の概要を時代別に述べる。

古墳時代の遺構は、流路(12)を検出したのみである。

平安時代の遺構は、朱雀大路の路面と側溝(1・4・5・7・13・15)が検出されており、樋口小路北側溝(1)、坊城小路西側溝(1)、六条坊門小路南側溝(7)、壬生大路西・東側溝(9・立1・立3)が検出された。1町内での宅地利用がわかる例として、掘立柱建物5棟・柵3列・井戸2基(12)が検出されており、その他に、平安時代後期の柱穴(13)、平安時代後期から鎌倉時代の井戸(10~12)などが検出されている。

鎌倉時代から室町時代の遺構は、井戸や溝(2・6・12・13)のみが検出されており、建物の痕跡は確認されていない。

江戸時代の遺構は、溝(立3)以外は、すべて土取り穴(1・3・6~8・10・11・13~15・試1・立1)である。調査地の付近一帯で土取りが大規模に行われたことがわかる。

表1 周辺調査一覧表

No.	条坊	調査面積 (㎡)	調査期間	所在地	調査概要	文献
1	左京六条一坊一町	1170	1991.7.15 ～10.30	下京区中堂寺命婦町	朱雀大路東側溝、樋口小路南側溝、坊城小路西側溝、鎌倉～江戸時代の土取り穴	1
2	左京六条一坊二町	130	1977.9.4 ～9.19	下京区中堂寺坊城町26-1 (光徳小学校)	鎌倉時代の井戸・溝	2
3	左京六条一坊二町	408	1978.11.15 ～12.20	下京区中堂寺坊城町26-1 (光徳小学校)	江戸時代の土取り穴、溝、井戸	3
4	左京六条一坊二町	100	1993.8.7 ～1994.3.24	下京区中堂寺坊城町	朱雀大路東側溝	4
5	左京六条一坊三町	80	1978.12.22 ～1979.1.13	下京区五条通	朱雀大路路面	5
6	左京六条一坊三・ 六町	800	1978.12.4 ～1979.2.28	下京区中堂寺壬生川町12 (国道9号線)	鎌倉～室町時代の井戸3基、江戸時代の土取り穴	6
7	左京六条一坊三・ 十一・十四町	1460	1980.1.25 ～4.30	下京区中堂寺坊城町	六条坊門小路南側溝、朱雀大路東側溝、江戸時代の土取り穴	7
8	左京六条一坊五町	175	1980.10.13 ～10.27	下京区中堂寺鍵田町4-1・5・ 24-5	江戸時代の土取り穴	8
9	左京六条一坊六町	100	1979.8.4 ～8.29	下京区中堂寺壬生川町	壬生大路西側溝、中世の石列	9
10	左京六条一坊八町	1000	1986.10.1 ～11.15	下京区中堂寺命婦町1	平安時代後期～鎌倉時代の井戸、江戸時代の土取り穴	10
11	左京六条一坊八町	1600	1983.4.1 ～6.15	下京区中堂寺命婦町1	壬生大路と坊城小路の側溝、平安時代後期～鎌倉時代の井戸11基、江戸時代の土取り穴	11
12	左京六条一坊十五町	460	1990.8.27 ～12.10	下京区中堂寺櫛筒町21-4他	古墳時代の流路、平安時代の掘立柱建物5棟・柵3列・井戸2基、鎌倉～室町時代の柱穴・井戸・土坑	12
13	右京六条一坊三・ 四町	2000	1979.3.10 ～6.11	下京区中堂寺南町 (中央市場)	平安時代の柱穴、朱雀大路西側溝、鎌倉～室町時代の井戸3基、江戸時代の土取り穴	13
14	朱雀大路	132.5	1995.12.4 ～12.29	下京区中堂寺坊城町	平安時代末期の流路、江戸時代の土取り穴	14
15	朱雀大路	188	1996.11.5 ～12.6	下京区中堂寺坊城町	朱雀大路路面・側溝、江戸時代の土取り穴	15
試1	左京六条一坊二町	40	1998.6.9 ～6.23	下京区中堂寺坊城町26-1 (光徳小学校)	江戸時代の土取り穴	16
立1	左京六条一坊	625	1981.2.9 ～2.20	下京区中堂寺坊城町～大宮通 五条上る下五条町35番地	壬生大路東側溝、江戸時代の土取り穴	17
立2	左京六条一坊	476	1980.9.2 ～10.15	下京区壬生川通	平安時代末から鎌倉時代の包含層	17
立3	左京六条・七条一坊	268.5	1980.12.15 ～1981.2.21	下京区中堂寺鍵田町2-4～壬 生川通花屋町通上る薬園町	壬生大路東側溝(推定)、中世包含層、江戸時代の溝	17
立4	左京六条一坊十三・ 十四町	305	1986.2.6 ～2.18	下京区藪之内町	多量の花崗岩製のケンチ石	18
立5	左京六条一坊九・十・ 十五町、朱雀大路	約320	1986.5.28 ～1987.7.5	下京区中堂寺西寺町～櫛筒町	時期不明の流路	—

文献一覧(表1の文献番号と一致)

- 1 「平安京左京六条一坊」『平成3年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1995年
- 2 「平安京左京六条一坊二町」『昭和52年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2011年
- 3 「平安京左京六条一坊二町」『昭和53年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2011年
- 4 「平安京左京六条一坊」『平成5年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1996年
- 5 「平安京左京六条一坊三町」『昭和53年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2011年
- 6 「平安京左京六条一坊三・六町」『昭和53年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2011年
- 7 「平安京左京六条一坊三・十二・十四町」『昭和54年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2011年
- 8 「平安京左京六条一坊五町」『昭和55年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2011年
- 9 「平安京左京六条一坊六町」『昭和54年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2011年
- 10 「平安京左京六条一坊」『昭和61年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1989年
- 11 「左京六条一坊」『昭和57年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1984年
- 12 「平安京左京六条一坊」『平成2年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1994年
- 13 「平安京右京六条一坊三・四町」『昭和53年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2011年
- 14 「平安京朱雀大路跡」『平成7年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1997年
- 15 「平安京朱雀大路跡」『平成8年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1998年
- 16 「平安京左京六条一坊」『平成10年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2000年
- 17 「昭和55年度試掘・立会調査一覧表」『昭和55年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2011年
- 18 「昭和60年度試掘・立会調査一覧表」『昭和60年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1988年

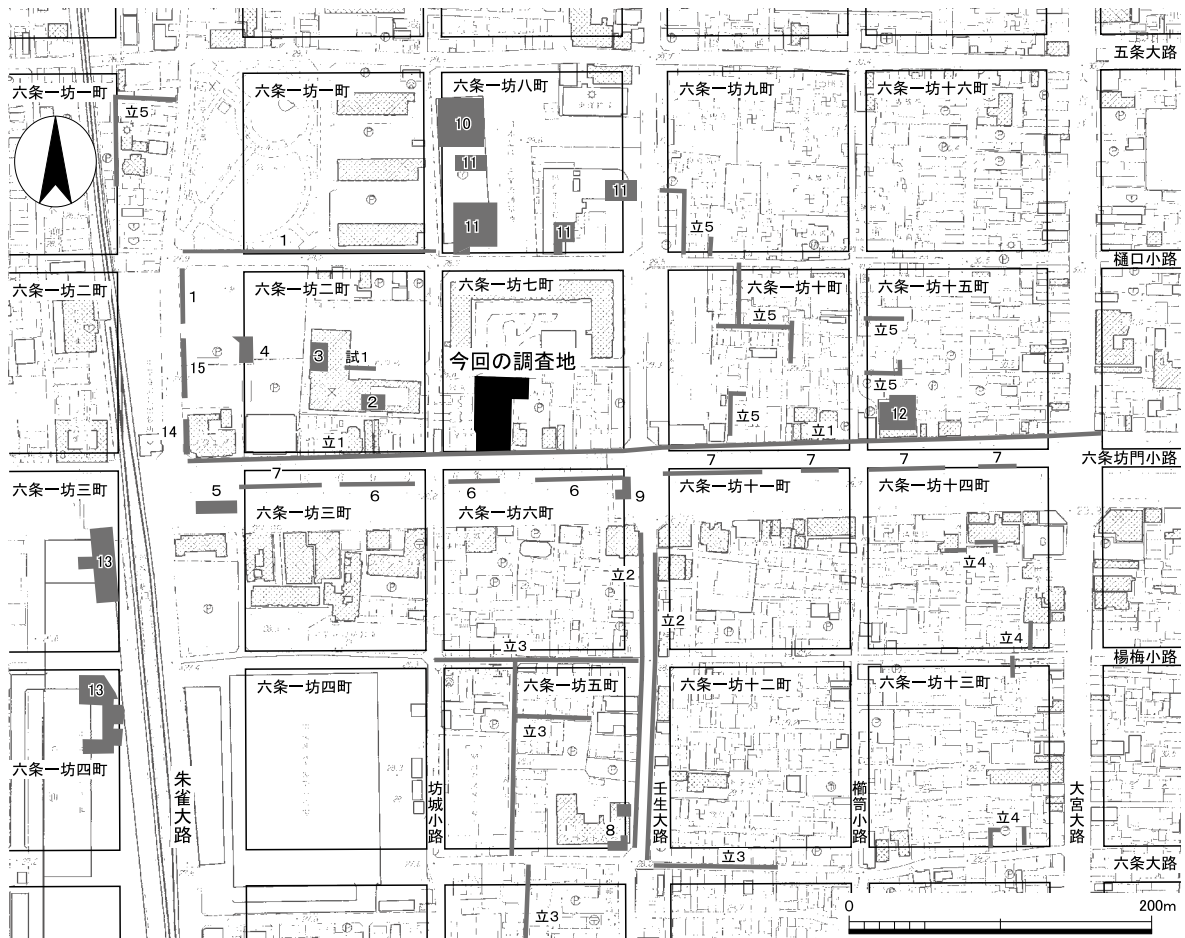


図5 周辺調査位置図 (1 : 5,000)

註

- 1) 京都市文化市民局文化芸術部都市推進室文化財保護課編『京都市遺跡地図台帳 第8版』京都市文化市民局 2007年
- 2) 京都市編「下京区概説 古代」『史料 京都の歴史 第12巻 下京区』平凡社 1981年
- 3) 山田邦和「第2部 第3節 左京と右京」『平安京提要』角川書店 1994年
- 4) 美川 圭「京・白川・鳥羽 院政期の都市」元木泰雄編『日本の時代史7 院政の展開と内乱』吉川弘文館 2002年
- 5) 南 孝雄「衰退後の右京－十世紀後半から十二世紀の様相－」西山良平・鈴木久男・藤田勝也編『平安京の地域形成』京都大学学術出版会 2016年
- 6) この火災は京都を襲った数多くの火災の中で、最も大規模なものの一つで当時の京都市街地の約3分の1を焼き尽くしたと伝わる。片平博文「12～13世紀における京都の大火災」『歴史都市防災論文集』vol.1 立命館大学歴史都市防災研究所 2007年
- 7) 隴谷寿・川嶋将生・鎌田道隆「下京区」『角川日本地名大辞典 26 京都府 下巻』角川書店 1982年
- 8) 長谷川家住宅所蔵。

### 3. 遺 構

#### (1) 基本層序 (図6・7)

調査地における現地表面の標高は28.5～28.7mで、現代盛土によりほぼ平坦地となっている。調査区の基本層序は、地表下約0.4～0.5mまで碎石やコンクリートを含む現代盛土であり、その下に江戸時代の耕作土層が約0.1mある(2区壁2層)。その下層は、調査区のほか全面に江戸時代の土取り穴の埋土(2区壁3～22層)が堆積する。これらは、その下層の基盤層である黄褐色シルト層(2区壁23層)や褐色粗砂～礫層(2区壁25層)を切り込んで成立する。遺構はすべて基盤層上面で検出した。調査は、鎌倉時代から室町時代、江戸時代の1面2時期に分けて実施した。基盤層上面の標高は1区北西端で約28.46m、2区中央南端で約27.74mであり、北から南に低くなる。

#### (2) 遺構の概要 (表2)

鎌倉時代から江戸時代までの遺構を検出した。遺構総数は19基である。

鎌倉時代から室町時代の遺構は、1区で土坑4、2区では土坑8と小規模なピットを検出した。江戸時代の遺構の多くは江戸時代の土取り穴であり、調査区の全域にわたって検出した。

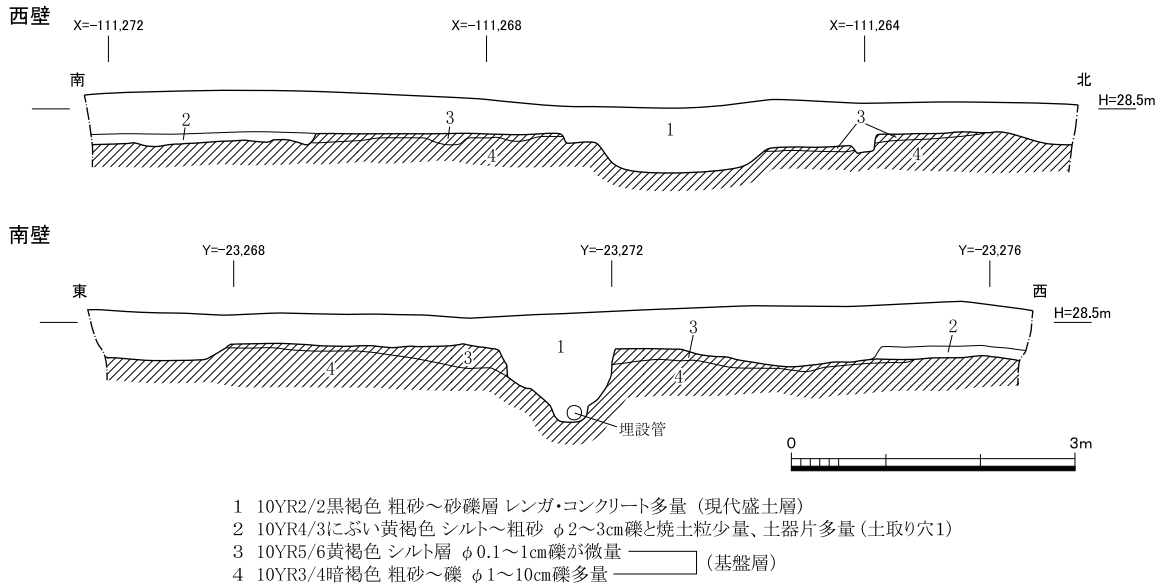


図6 1区西壁・南壁断面図 (1:80)

表2 遺構概要表

時 代	遺 構	備 考
鎌倉時代～室町時代	土坑4・8、ピット	
江戸時代	土取り穴1・3・7・16～19	

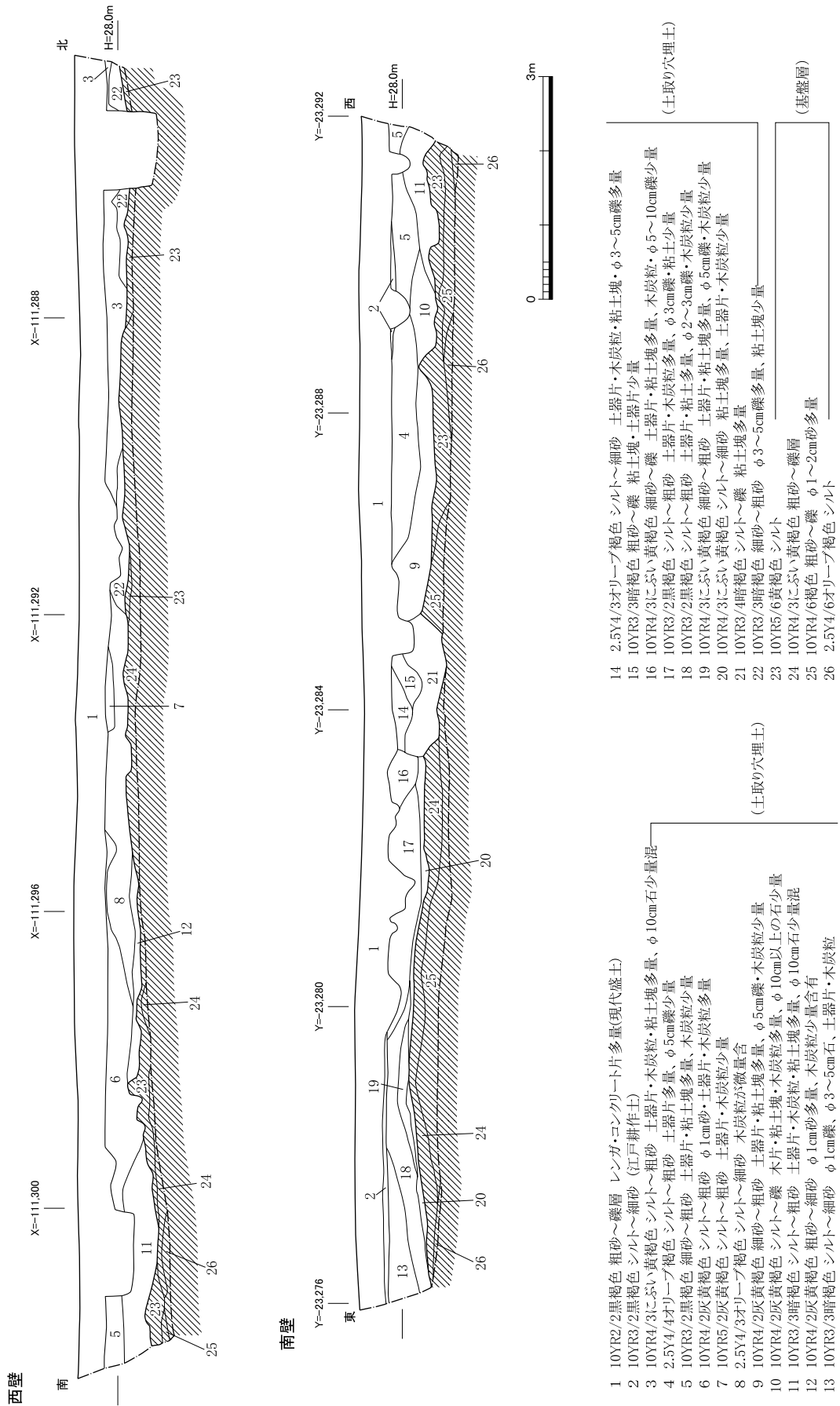
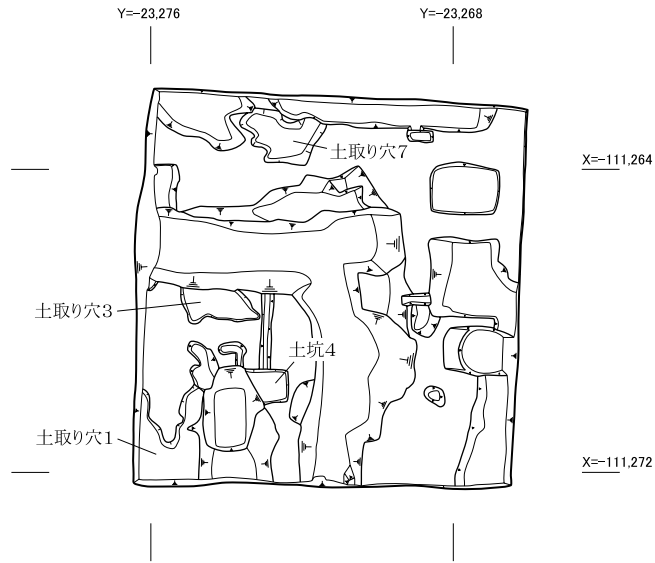


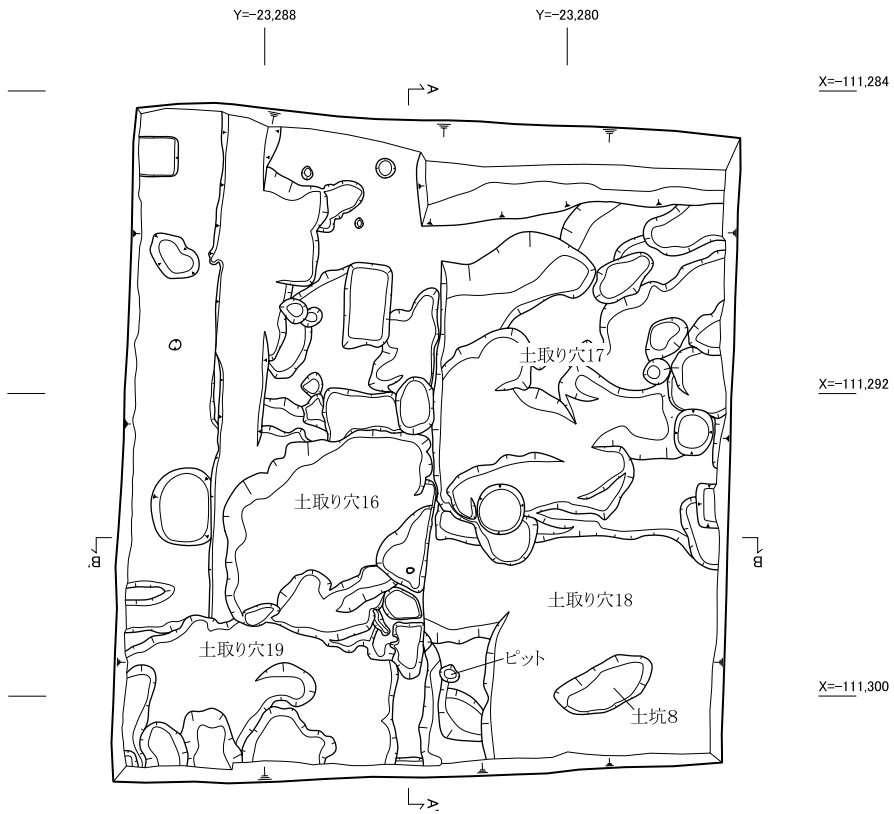
図7 2区西壁・南壁断面図 (1:80)



1区



2区



※ A-A'・B-B'は図11に対応



図8 1区・2区平面図 (1:200)



以下では、検出した主要な遺構について調査区ごとに時期の古い順に報告する。なお、遺構及び出土遺物の時期については、平安京・京都土器編年案を準用する<sup>1)</sup>。

### (3) 1区 (図8、図版1)

#### 1) 鎌倉時代から室町時代

**土坑4** (図9、図版1) 1区南西で検出した。平面形は東西に長い隅丸方形で、西半は攪乱を受ける。検出長は東西約1.1m、南北約0.9mあり、深さは検出面から約0.1mある。埋土は灰黄褐色(10YR4/2)細砂～粗砂に土師器の細片とφ0.2cmの礫が多量混じる。土坑底面から鉄器とともに同安窯系の青磁皿が4枚重なって出土した。遺物の時期は京都VI期新段階と考える。出土遺物や遺構の形状から鎌倉時代の墓の可能性はある。

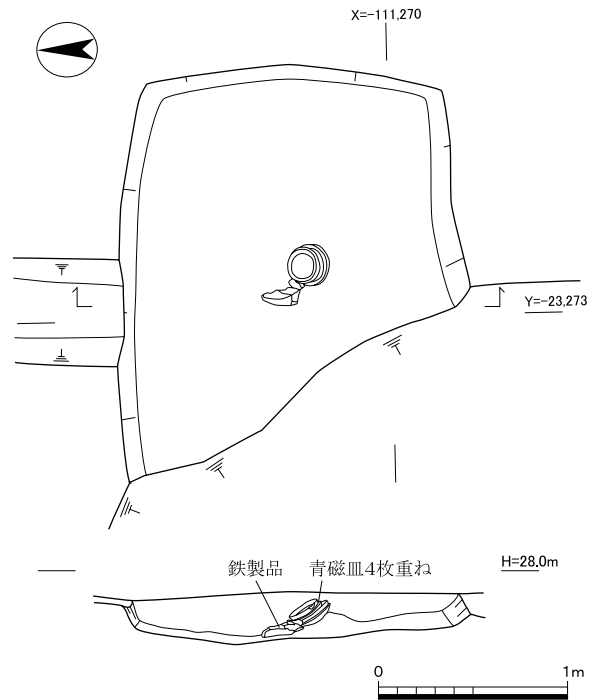
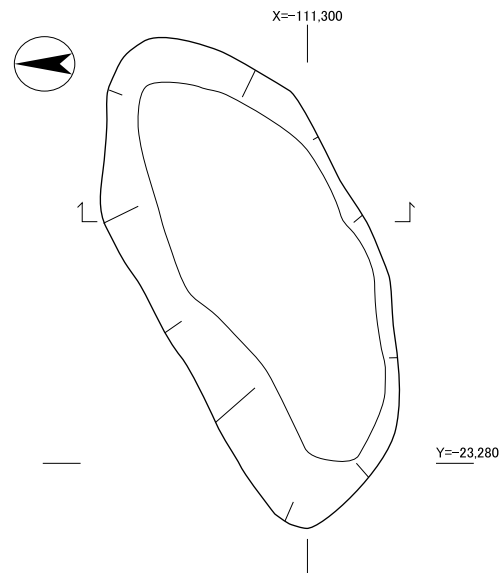


図9 土坑4実測図(1:40)

#### 2) 江戸時代

**土取り穴群** 1区西半で土取り穴1・3・7を検出した。平面の形状はいずれも不整形である。底面は砂礫層上面で止まる。土取り穴1の検出規模は、南北約2.52m、東西約1.6m、深さ約0.12mある(図6-2層)。土取り穴3の検出規模は、南北約0.46m、東西約2.1m、深さ約0.24mある。土取り穴7の検出規模は、南北約1.48m、東西約2.16m、深さ約0.26mある。埋土からいずれも土師器皿、焼締陶器、施釉陶器、伏見人形などの細片が出土した。遺物の時期は京都VII期段階と考えられる。



- 1 10YR3/2黒褐色 粗砂 土師器片多量、炭とφ10~15cm石混
- 2 10YR4/3にぶい黄褐色 細砂 土器片少量、φ3~10cm石混

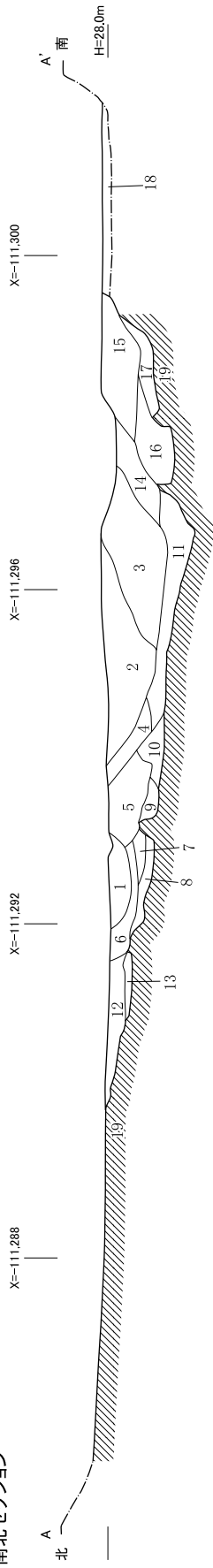
図10 土坑8実測図(1:40)

### (4) 2区 (図8、図版2)

#### 1) 鎌倉時代から室町時代

**土坑8** (図10) 2区南東で検出した。平面の形状は楕円形で、検出規模は長径約2.71m、短径約1.4mあり、深さは検出面から約0.48mある。埋土は黒褐色粗砂とにぶい黄褐色細砂に少量の炭化物と石のほか、土師器皿が多量

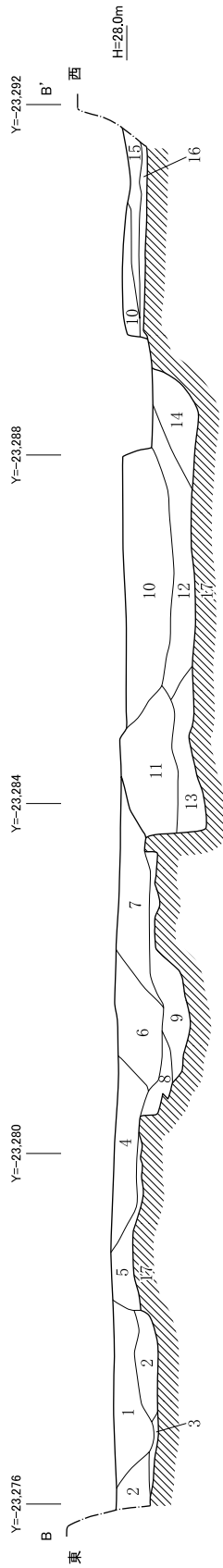
南北セクション



- 1 10YR5/3にぶい黄褐色粗砂 φ2cm砂粒多量
  - 2 10YR4/3にぶい黄褐色シルト～粗砂 φ3～5cm礫・粘土塊・土器片多量
  - 3 10YR3/3暗褐色シルト～粗砂 φ1～5cm砂粒・粘土塊・土器片多量
  - 4 10YR4/2灰黄褐色粗砂 φ1～3cm礫・粘土塊少量含有、粘性無
  - 5 10YR3/3暗褐色粗砂 φ3～5cm礫多量、粘土塊少量
  - 6 10YR5/3にぶい黄褐色細砂 φ1cm砂粒少量
  - 7 10YR3/2暗褐色シルト～細砂 木炭粒・粘土塊少量
  - 8 10YR4/2灰黄褐色シルト～細砂 土器片少量
  - 9 10YR4/3にぶい黄褐色シルト～細砂 10YR4/4褐色粘土塊とφ1cm砂粒多量
  - 10 10YR4/6褐色シルト～細砂 φ3～5cm礫・粘土塊多量、土器片少量
- (土取り穴16埋土)

- 11 10YR4/1褐灰色シルト～細砂 10YR4/4褐色粘土塊多量、木炭粒・土器片少量
- 12 10YR5/2灰黄褐色シルト～細砂 土器片・木炭粒多量
- 13 10YR4/3にぶい黄褐色シルト～細砂 土器片・木炭粒少量
- 14 10YR4/2灰黄褐色粗砂 φ1～3cm礫・粘土塊少量
- 15 10YR4/3にぶい黄褐色シルト～粗砂 土器片・粘土塊多量、φ5～10cm礫少量
- 16 10YR3/2暗褐色粗砂 φ1～2cm礫・木炭粒少量
- 17 10YR3/3暗褐色シルト～粗砂 粘土塊・土器片、φ1～2cm礫多量
- 18 10YR4/3にぶい黄褐色細砂～粗砂 土器片・粘土塊多量、φ2cm礫・瓦片少量
- 19 10YR4/4褐色シルト層(基盤層)

東西セクション



- 1 10YR4/2灰黄褐色粗砂 φ1cm砂・土器片多量
  - 2 10YR3/2暗褐色シルト～粗砂 φ1cm砂・土器片少量
  - 3 10YR4/3にぶい黄褐色シルト～細砂 土器片・木炭粒少量含有
  - 4 10YR3/1黒褐色シルト～細砂 土器片多量、φ3～5cm小石・木炭粒少量
  - 5 10YR3/3暗褐色シルト
  - 6 2.5Y4/2暗灰黄色粗砂 φ1～2cm砂粒・土器片・木炭粒少量含有
  - 7 10YR4/3にぶい黄褐色シルト～粗砂 φ1～2cm砂粒・粘土塊少量、土器片多量
  - 8 10YR4/2灰黄褐色粗砂～粗砂 粘土塊・土器片多量、木炭粒・φ3cm礫少量
  - 9 2.5Y3/2黒褐色粗砂～粗砂 土器片・木炭粒少量
- (土取り穴17埋土)

- 10 10YR4/3にぶい黄褐色シルト～粗砂 φ1～5cm礫・土器片・10YR4/4褐色粘土塊多量
- 11 10YR3/3暗褐色シルト～粗砂 φ1～5cm礫・土器片・木炭粒多量
- 12 2.5Y3/2暗褐色粗砂 φ1cm砂粒・土器片多量、木炭粒少量
- 13 10YR4/1褐灰色シルト～細砂 10YR4/4褐色粘土塊多量、木炭粒・土器片少量
- 14 2.5Y4/2暗灰黄色粗砂～粗砂 土器片・木炭粒少量含有
- 15 10YR4/2暗灰黄色シルト～細砂 土器片・木炭粒少量
- 16 10YR4/3にぶい黄褐色粗砂～礫 φ1～2cm礫多量
- 17 10YR4/4褐色シルト層(基盤層)



※ A-A'・B-B'の位置は図8に参照

図11 2区南北・東西セクション断面図 (1:80)



## 4. 遺 物

### (1) 遺物の概要 (表3)

遺物は、整理箱で計18箱出土した。出土遺物には、土器・陶磁器類、土製品、瓦類、金属製品、石製品があり、土器・陶磁器類が最も多く、それ以外は少量である。

弥生時代の土器と平安時代の土師器・緑釉陶器・灰釉陶器・瓦類・木製品は、江戸時代の土取り穴から少量出土した。

鎌倉時代から室町時代の遺物は、土坑や江戸時代の土取り穴から多量に出土した。土師器皿が9割以上を占め、それ以外にも白色土器、須恵器、灰釉陶器、瓦器、焼締陶器、輸入陶磁器、瓦類、石製品、金属製品などが出土した。

江戸時代の遺物は、土取り穴から焼締陶器、施釉陶器、染付、色絵、磁器、輸入陶磁器、金属製品、伏見人形などが少量出土した。小片が多い。

以下では、主要な遺構から出土した遺物について概要を述べる。なお、土器・陶磁器類の個別の詳細については、付表1にまとめた。

### (2) 土器類 (図12～17、図版3、付表1)

土坑4出土土器 (図12、図版3) 1～4は輸入陶磁器の同安窯系青磁皿である。無高台で内面底部に片彫文、櫛点描文を施す。京都VI期新段階に属する資料である。

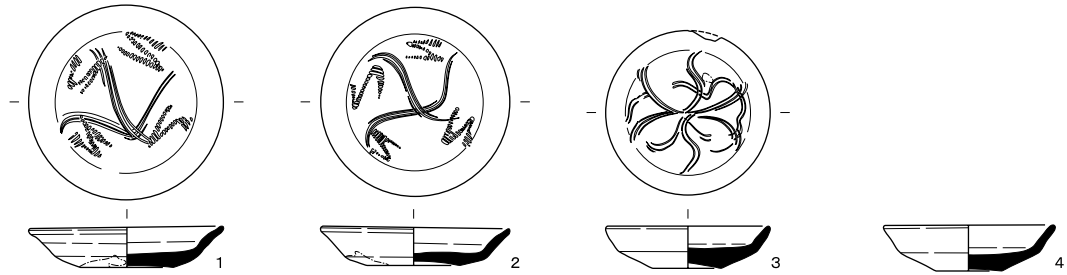
土坑8出土土器 (図12、図版3) 土師器皿、須恵器甕・鉢・壺、瓦器椀・鍋・鉢・羽釜・盤、焼締陶器甕、施釉陶器椀、青磁皿、丸瓦・平瓦などが出土した。京都VI期中～新段階に属する資料と思われる。

表3 遺物概要表

時 代	内 容	コンテナ箱数	Aランク点数	Bランク箱数	Cランク箱数
弥生時代	弥生土器		弥生土器3点		
平安時代	土師器、緑釉陶器、灰釉陶器、瓦類、木製品		土師器1点、緑釉陶器4点、灰釉陶器2点：計7点		
鎌倉時代 ～室町時代	土師器、須恵器、白色土器、灰釉陶器、瓦器、焼締陶器、輸入陶磁器、瓦類、石製品、金属製品		土師器89点、須恵器2点、白色土器1点、瓦器20点、焼締陶器1点、輸入陶磁器9点、軒平瓦1点、石製品1点、金属製品1点：計125点		18箱
江戸時代	焼締陶器、施釉陶器、染付、色絵、磁器、輸入陶磁器、金属製品、伏見人形		焼締陶器5点、施釉陶器10点、染付8点、色絵2点：計25点		
合 計		21箱	160点 (3箱)	0箱	18箱

※ コンテナ箱数の合計は、整理後、Aランクの遺物を抽出したため、出土時より3箱多くなっている。

土坑4



土坑8

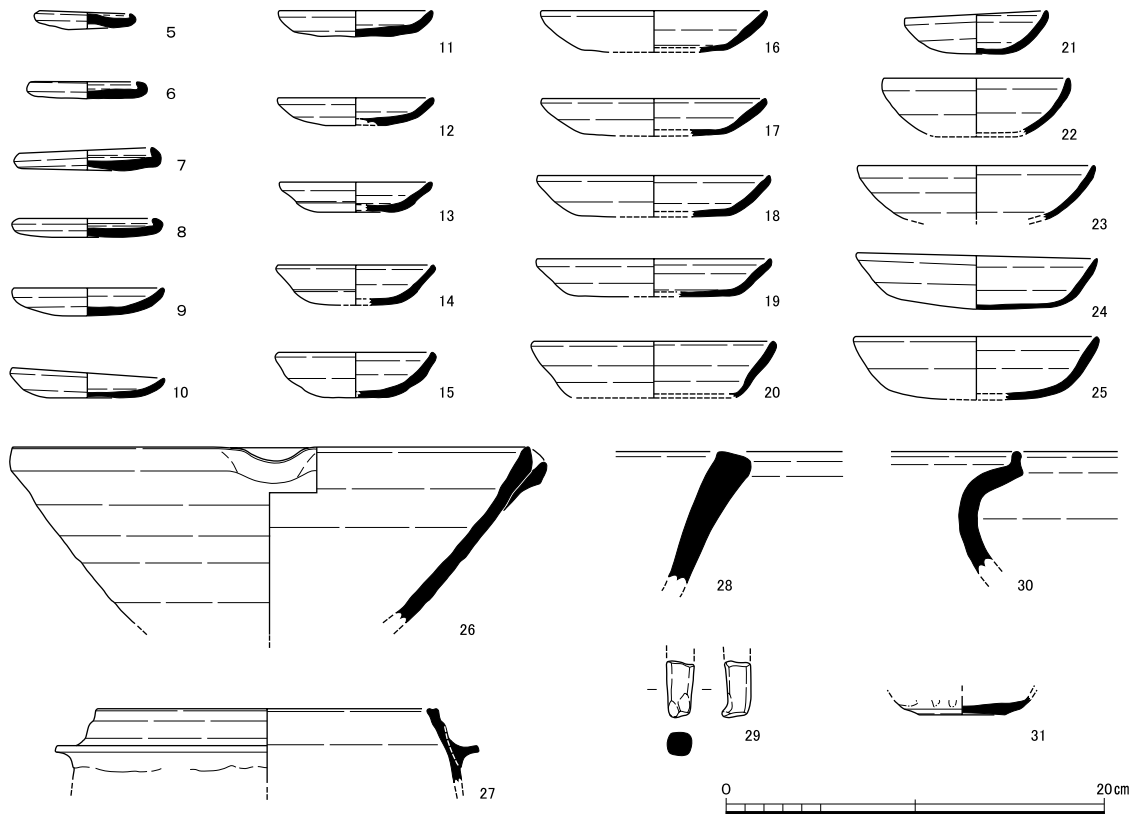


図12 土坑4・8出土土器実測図（1：4）

5～25は土師器皿である。5～8は皿Acで、口縁端部は内側へ折り返す。9～20は赤色系の皿Nである。9～15は小型皿であるが、9～13は口径8.1～8.3cm、器高1.3～1.5cmで浅いタイプであり、14～15は口径8.4～8.5cm、器高2.1～2.4cmでやや深いタイプである。16～20は口径12.0～13.0cm、器高2.0～3.0cmの大型皿である。21～25は白色系の皿Sである。21は口径7.8cm、器高2.1cmの小型皿であり、22は口径10.0cm、器高3.1cmの中型皿である。23～25は口径12.6～13.0cm、器高3.0cm前後の大型皿である。

26は東播磨系須恵器の片口鉢で、内外面を丁寧に回転ナデ調整する。27～29は瓦器で、27は羽釜、28は盤、29は三足羽釜の脚部である。30は常滑産焼締陶器の甕である。31は輸入陶磁器の青磁皿で、内面底部の中央には焼成前に、ヘラ状工具で釉薬が掻きとられている。

土取り穴群出土土器

調査区の全域にわたって検出した土取り穴16～19からは、弥生時代・平安時代・鎌倉時代・室

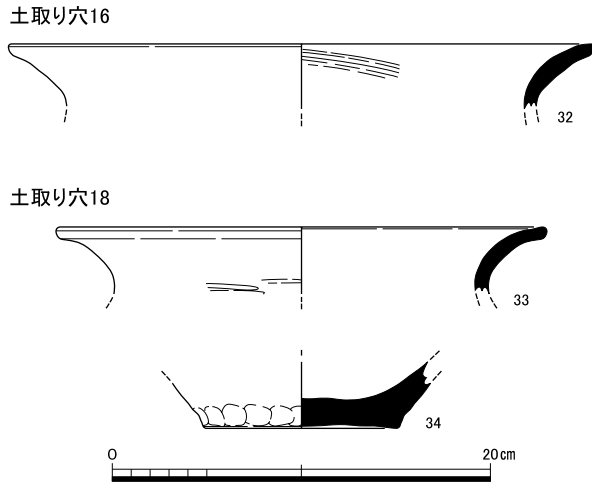


図13 土取り穴出土弥生土器実測図（1：4）

町時代・江戸時代の各時代の遺物が出土している。弥生土器は少量出土したが、いずれも器面全体に剥離・摩耗が進み、調整が不明瞭である。平安時代の遺物は土師器甕、緑釉陶器椀・皿・三足盤・壺、灰釉陶器椀・壺などが少量出土した。鎌倉時代から室町時代の遺物が最も多く出土した。土師器皿、白色土器高杯、須恵器甕・鉢・壺、瓦器椀・鍋・羽釜・火鉢、焼締陶器播鉢・甕、輸入陶磁器青磁椀・皿・壺、軒平瓦・丸瓦・平瓦、鉄製品、石製品など多種多様なものが出土した。江戸

時代の遺物は少量で細片ではあるものの、埋土の底部から出土した。施釉陶器椀・皿・鍋、染付椀・皿、輸入陶磁器青磁椀・壺、白磁椀・皿、伏見人形などが出土した。

土取り穴出土弥生土器（図13） 32・33は甕の口縁部、34は壺の底部である。32は土取り穴16、33・34は土取り穴18から出土した。

土取り穴16出土土器（図14、図版3） 35は猿投産の緑釉陶器三足盤、36は猿投産の灰釉陶器壺である。

37～48は土師器皿である。37～42は赤色系の皿Nである。37・38は口径8.9～9.2cm、器高1.4～1.7cmの小型皿、39・40は口径9.8～11.0cm、器高1.9～2.1cmの中型皿、41・42は口径12.4cm、器高1.9～2.8cmの大型皿である。43～48は白色系の皿Sである。43～45は口径7.6～8.2cm、器高2.1～2.3cmの小型皿、46は口径10.8cm、器高3.1cmの中型皿、47・48は口径12.6～13.2cm、器高3.2cmの大型皿である。

49は白色土器の高杯脚部の破片で、12面に面取りする。中心穴の直径は比較的小さい。50～55は瓦器である。50は三足羽釜の脚部、51・52は大和型瓦器椀、53は和泉型瓦器椀、54は羽釜である。55は鍋で、口縁部の内外面には煤が付着する。56は輸入陶磁器の白磁皿である。57・58は輸入陶磁器の青磁である。57は椀で、内面底部には5葉の花文が施されている。58は壺の口縁部である。59は輸入陶磁器の高麗青磁で、体部外面には象嵌技法により、雲文が描かれている。

60～62は施釉陶器である。60は椀、61は鍋、62は鉢である。63は白磁に赤色顔料が付着する色絵磁器の小鉢である。64～69は肥前系染付椀である。70～72は焼締陶器で、70は壺、71・72は堺・明石系の播鉢である。

土取り穴17出土土器（図15） 73は緑釉陶器壺で、外面にはヘラミガキを丁寧に施す。

74～90は土師器皿である。74・75は土師器皿Acで、口縁端部は内側へ折り返す。76～87は赤色系の土師器皿Nである。76～80は小型皿で、76～78は口径8.0～8.4cm、器高1.2～1.4cmの浅いタイプ、79・80は口径7.9cm、器高2.2～2.3cmのやや深いタイプである。81は口径9.4cm、器高2.0cmの中型皿である。82～87は口径11.6～13.4cm、器高1.9～2.8cmの大型皿である。88～90は白色

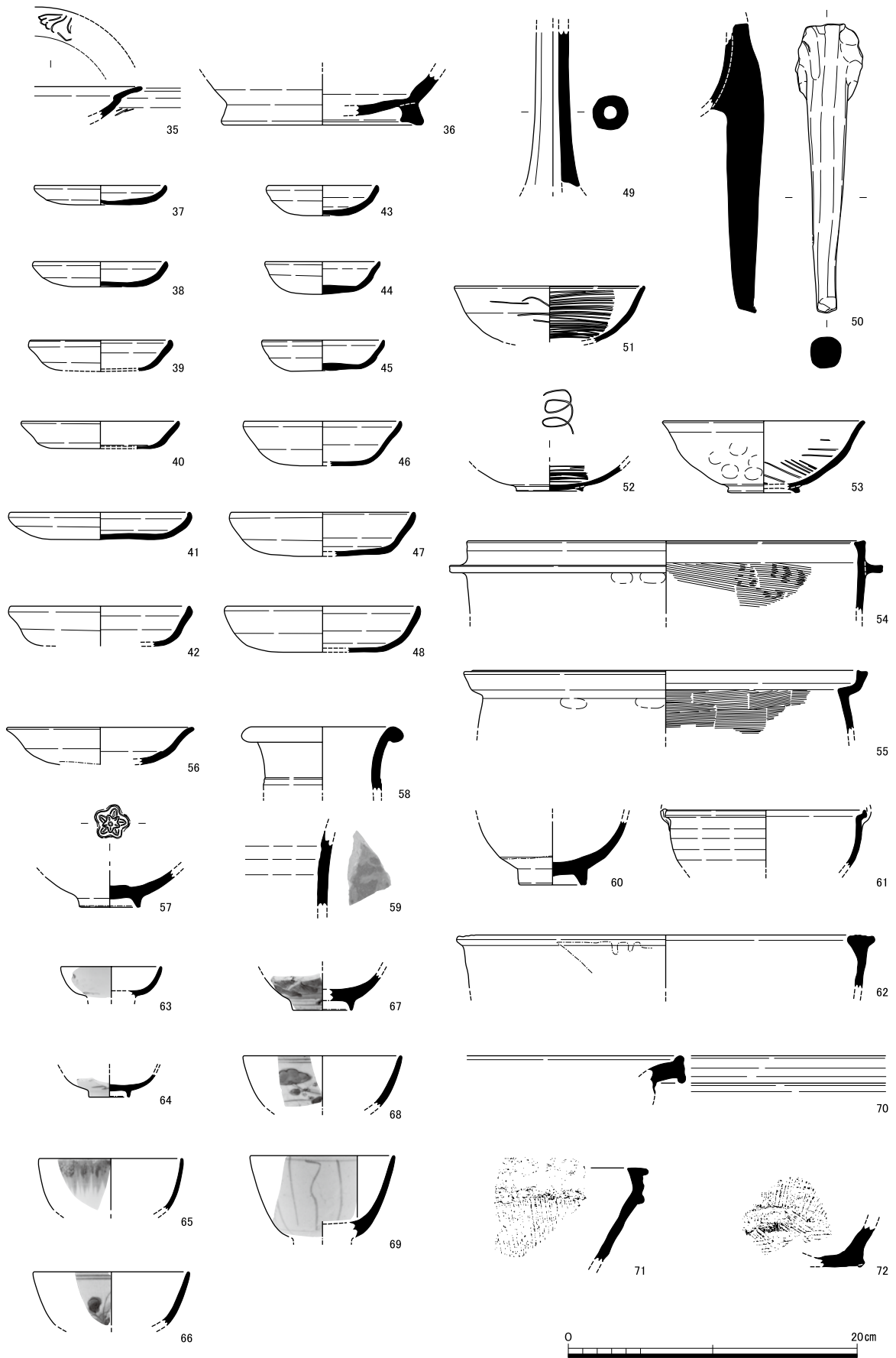


图14 土取り穴16出土土器実測図（1：4）

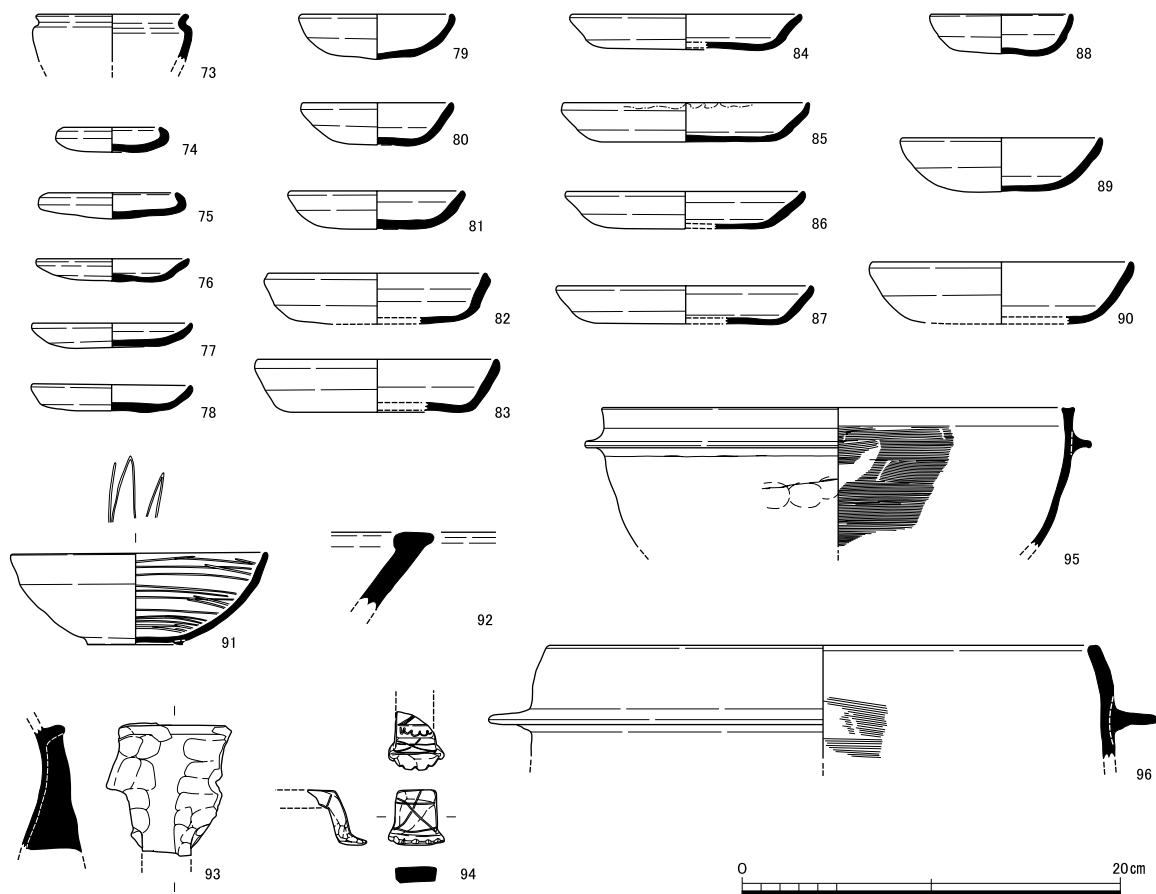


図15 土取り穴17出土土器実測図（1：4）

系の土師器皿Sである。88は口径7.4cm、器高2.2cmの小型皿である。89は口径10.5cm、器高2.9cmの中型皿である。90は口径13.5cm、器高3.3cmの大型皿である。

91～95は瓦器である。91は楠葉型瓦器椀、92は盤、93は羽釜の脚部である。94は柄香炉の端部と思われ、表面には暗文が施されている。95は羽釜である。96は土師器の羽釜で、口径29.0cmに復元できる。

土取り穴18出土土器（図16） 97・98は緑釉陶器で、97は椀、98は皿である。99は灰釉陶器椀で、高台に糸切り痕が残る。100は土師器甕で、口径は23.3cmに復元できる。

101～128は土師器皿である。101～103は皿Acで、口縁端部は内側へ折り返す。104～119は赤色系の皿Nである。104～109は口径7.6～8.4cm、器高1.2～2.0cmの小型皿であるが、104～106は器高1.2cmの浅いタイプ、107～109は器高1.5～2.0cmのやや深いタイプである。110は口径9.6cm、器高2.1cmの中型皿である。111～119は口径12.0～14.6cm、器高2.0～3.0cmの大型皿である。111～115は器高2.0～2.4cmの浅いタイプ、116～119は器高2.5～3.0cmのやや深いタイプである。120～128は白色系の皿Sである。120～122は口径7.6～8.8cm、器高1.9～2.2cmの小型皿であり、123～125は口径9.0～10.4cm、器高2.2～2.9cmの中型皿である。126～128は口径12.6～13.6cm、器高2.9～3.3cmの大型皿である。

129～131は瓦器で、129は盤、130は火鉢、131は鍋である。



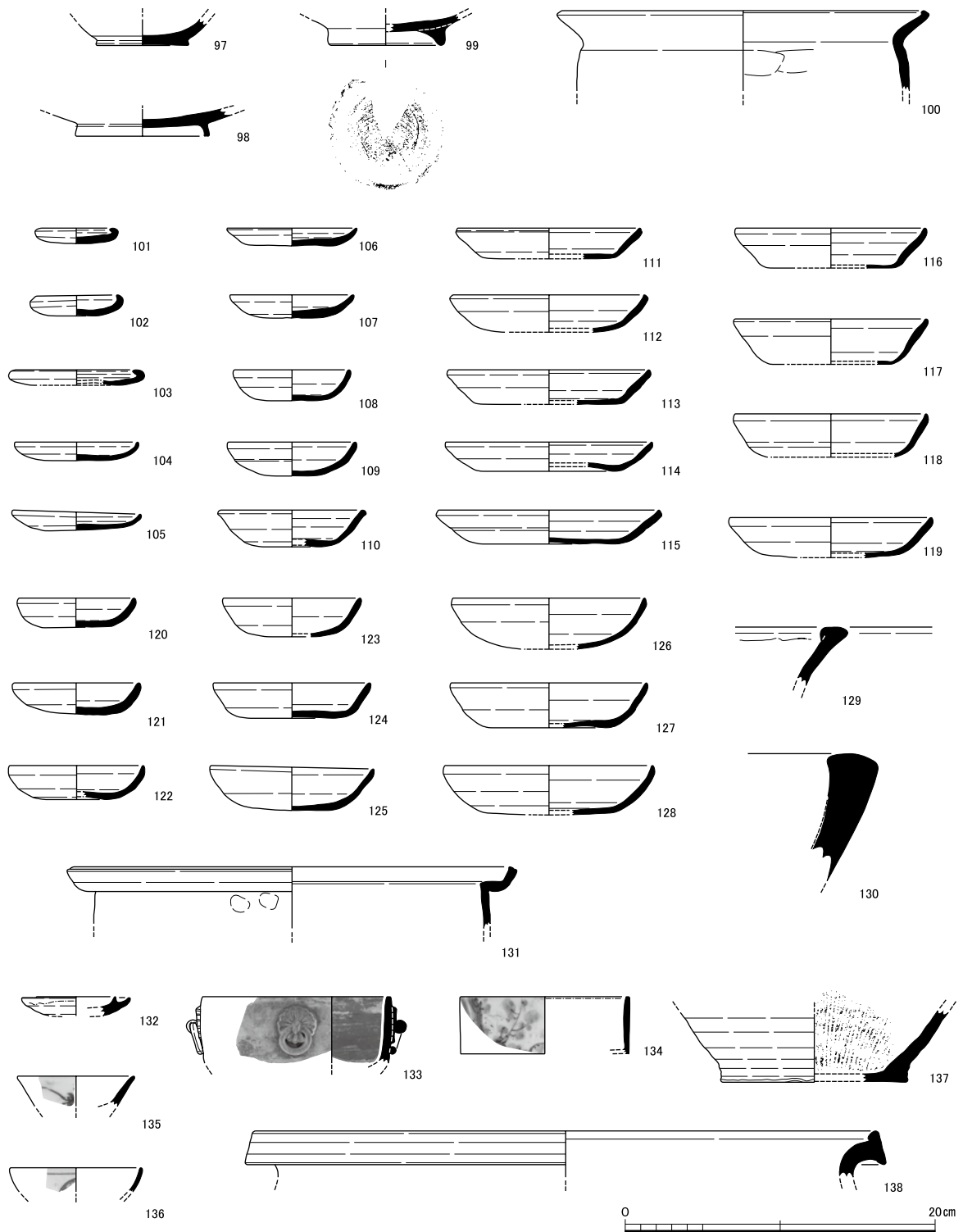


図16 土取り穴18出土土器実測図（1：4）

132・133は施釉陶器で、132は燈明皿、133は香炉と思われる。133は外面に16葉菊文の上に輪状の引手を付けた飾りがあり、赤色の顔料が内外面に付着することから、後に絵道具として使われたと思われる。134・135は肥前系染付で、134は鬢盥、135は椀である。136は色絵磁器椀である。137・138は焼締陶器である。137は堺・明石系の播鉢である。138は甕で、口径は40cmと推定される。

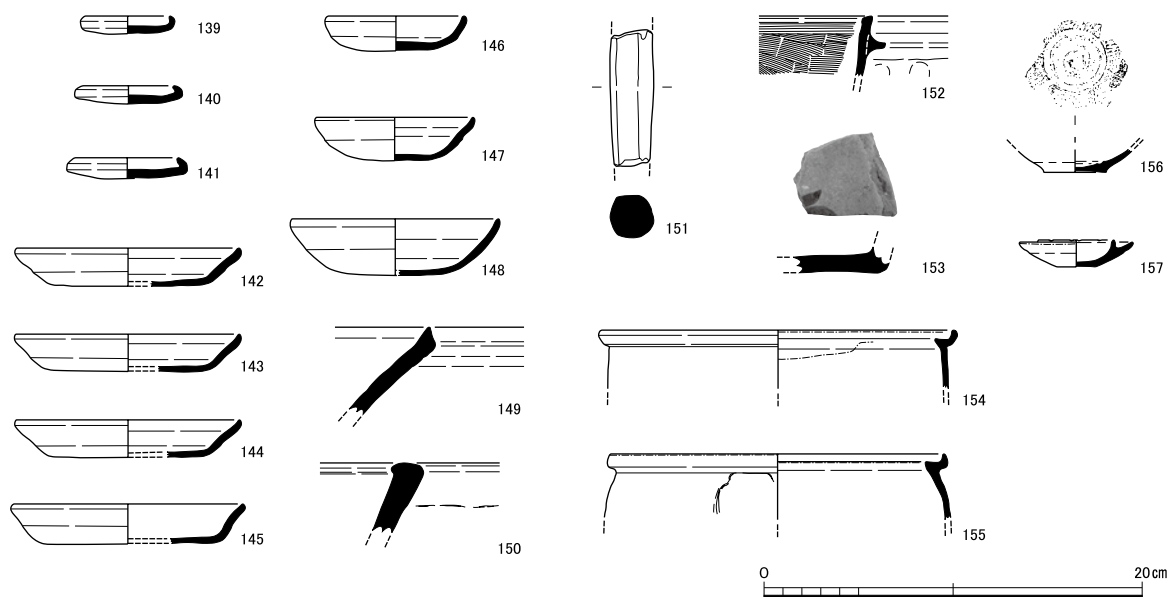


図17 土取り穴19出土土器実測図（1：4）

土取り穴19出土土器（図17） 139～148は土師器皿である。139～141は皿Acで、口縁端部は内側へ折り返す。142～145は口径11.8～12.2cm、器高2.0～2.1cmの大型皿である。146～148は白色系の皿Sである。146・147は口径7.2～8.3cm、器高1.9～2.3cmの小型皿で、148は口径11.0cm、器高3.0cmの大型皿である。

149は東播系須恵器の鉢である。150～152は瓦器で、150は盤、151は羽釜の脚部、152は羽釜である。

153～157は施釉陶器である。153は大皿の底部で、底部内面に鉄絵が施されている。154・155は鍋である。156はミニチュアの播鉢で、凹面のみ施釉されている。157は燈明皿である。

### （3）その他の遺物（図18）

瓦 158は剣頭文軒平瓦で、折り曲げ式である。顎部裏面に指オサエ、平瓦部凹面に布目痕が残る。土取り穴17出土。

石製品 159は滑石製の羽釜である。口径15.2cmと推定され、口縁部外面下方に鏝が巡る。内外面に加工痕が残る。土取り穴16出土。

金属製品 160は円錐形を呈する鉄製品である。鍛造の薄板を巻いて成形し内部は空洞である。錫丈あるいは矢に用いられたものと思われるが用途不明である。土坑4出土。

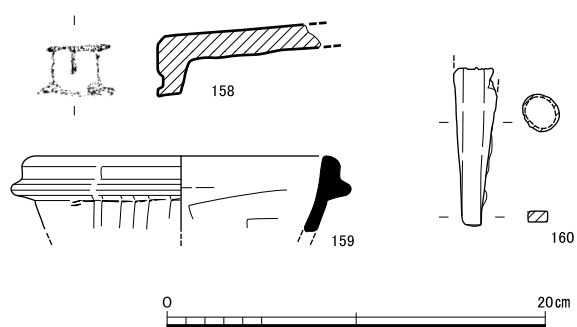


図18 その他の遺物拓影及び実測図（1：4）

## 5. まとめ

今回の調査地は平安京左京六条一坊七町跡にあたる。調査では、江戸時代の土取り穴と鎌倉時代の土坑を検出した。土取り穴出土の遺物は、大半が鎌倉時代のものであるが、江戸時代中期の遺物が含まれていることから、採土の時期はこの頃に下ると考えられる。

また、土取り穴は調査区内で東西に分かれる大きな単位が認められる。東群の土取り穴17・18と、西群の土取り穴16・19の間には畔状に掘り残された部分があり、これを境として東西で掘削が行われたことがわかる。その畔のラインは、昭和2年(1926)頃発行されたと推定される『京都市明細図<sup>1)</sup>』(図19)にみえる建物の区画(Y=-23,284付近)とも一致する。当地の土地利用がわかる江戸時代の絵図は残っていないものの、当時の区画あるいは土地境界に沿って土取りが行われた可能性が考えられる<sup>2)</sup>。なお、調査地周辺の既往調査では江戸時代の土取り穴が多く検出されており、今回の調査で検出した土取り穴の形状や埋土の堆積状況からみても、この付近一帯で採土作業がほぼ同時期に大々的に行われた状況がうかがえる。

一方、今回の調査では、江戸時代を遡る遺構は非常に少なかった。江戸時代の土取りや耕作などにより、古い段階の遺構はほぼ削平されたと考えられる。ただ、土坑4は出土遺物や遺構の形状から鎌倉時代の墓である可能性があり、土取り穴から出土する多量の遺物と併せて考えると、調査地は鎌倉時代の居住域の中に墓地があった可能性が考えられる。

以上のように、今回の調査によって江戸時代における調査地の土地利用の様子的一端を明らかにすることができた。鎌倉時代以降の土地利用の実態については、資料の増加を期待しながら今後の課題としたい。

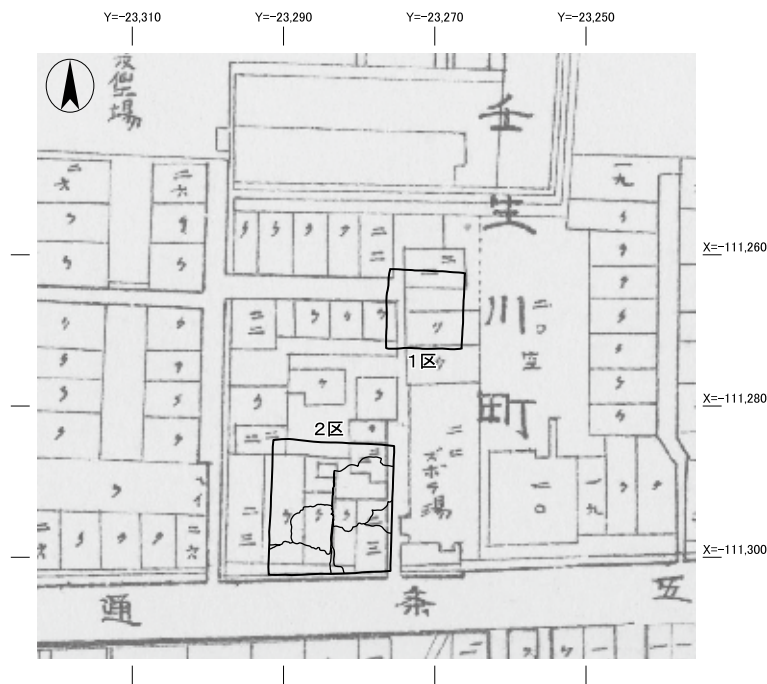


図19 『京都市明細図』の調査地 (1:1,000)

註

- 1) 長谷川家住宅所蔵。
- 2) 京都大学病院校内遺跡では方形に近い小さな単位の土取り穴が畔を残しつつ、掘削を進めていることが確認されている。江戸時代に土が商品化されるにつれ、採取量算定の便を考慮した結果だと想定した。

五十川伸矢・浜崎一志「京都大学病院校内AJ18・AJ19区の発掘調査」『京都大学構内遺跡調査研究年報 1986年度』京都大学埋蔵文化財研究センター 1989年

五十川伸矢「第6章 土取りの歴史的変遷」『京都大学埋蔵文化財調査報告Ⅳ』京都大学埋蔵文化財研究センター 1991年

付表1 出土土器類観察表

番号	器種	器形	出土遺構	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存(%)	色調	時代
1	輸入 青磁	皿	土坑4	10.2	5.0	2.2	100	胎)5Y7/1灰白 釉)10Y6/2オリーブ灰	鎌倉
2	輸入 青磁	皿	土坑4	9.8	4.9	2.1	100	胎)5Y7/1灰白 釉)2.5GY6/1オリーブ灰	鎌倉
3	輸入 青磁	皿	土坑4	8.5	3.7	2.2	90	胎)7.5Y7/1灰白 釉)7.5Y6/3オリーブ黄	鎌倉
4	輸入 青磁	皿	土坑4	9.0	3.5	2.4	100	胎)5Y7/1灰白 釉)7.5GY7/1明緑灰	鎌倉
5	土師器	皿Ac	土坑8	5.4		0.9	100	10YR8/2灰白	鎌倉
6	土師器	皿Ac	土坑8	6.4		0.9	100	10YR8/1灰白	鎌倉
7	土師器	皿Ac	土坑8	7.8		1.1	50	10YR7/2にぶい黄橙	鎌倉
8	土師器	皿Ac	土坑8	8.0		1.0	75	7.5YR6/4にぶい橙	鎌倉
9	土師器	皿N小	土坑8	8.1		1.5	50	10YR6/2にぶい黄橙	鎌倉
10	土師器	皿N小	土坑8	8.2		1.3	75	10YR8/2灰白	鎌倉
11	土師器	皿N小	土坑8	8.2		1.4	40	10YR8/2灰白	鎌倉
12	土師器	皿N小	土坑8	8.3		(1.4)	25	10YR7/3にぶい黄橙	鎌倉
13	土師器	皿N小	土坑8	8.1		1.5	25	10YR8/1灰白	鎌倉
14	土師器	皿N小	土坑8	8.4		2.4	50	7.5YR7/4にぶい橙	鎌倉
15	土師器	皿N小	土坑8	8.5		2.1	35	10YR7/2灰白	鎌倉
16	土師器	皿N大	土坑8	(12.0)		(2.2)	15	7.5YR8/3浅黄橙	鎌倉
17	土師器	皿N大	土坑8	(12.0)		(2.0)	15	10YR7/2にぶい黄橙	鎌倉
18	土師器	皿N大	土坑8	12.4		2.2	20	7.5YR7/4にぶい橙	鎌倉
19	土師器	皿N大	土坑8	(12.5)		(2.0)	15	10YR6/3にぶい黄橙	鎌倉
20	土師器	皿N大	土坑8	13.0		(3.0)	15	7.5YR5/4にぶい褐	鎌倉
21	土師器	皿S小	土坑8	7.8		2.1	85	2.5Y8/1灰白	鎌倉
22	土師器	皿S中	土坑8	(10.0)		(3.1)	15	10YR8/1灰白	鎌倉
23	土師器	皿S大	土坑8	12.6		(3.0)	15	10YR8/1灰白	鎌倉
24	土師器	皿S大	土坑8	12.8		3.0	75	2.5Y7/2灰黄色	鎌倉
25	土師器	皿S大	土坑8	13.0		(3.1)	70	10YR8/1灰白	鎌倉
26	須恵器	鉢	土坑8	27.4		10.0	15	N6/0灰	鎌倉
27	瓦器	羽釜	土坑8	17.8		(3.9)	10	N6/0灰	鎌倉
28	瓦器	盤	土坑8	—		(7.2)	口縁部10	N4/0灰	鎌倉
29	瓦器	三足羽釜	土坑8	長(3.0)			脚部20	N5/0灰	鎌倉
30	焼締陶器	甕	土坑8			(6.5)	口縁部10	5YR5/3にぶい赤褐	鎌倉
31	輸入 青磁	皿	土坑8	—	4.6		50	胎)7.5YR7/3にぶい橙 釉)10Y7/1灰白	鎌倉
32	弥生土器	甕	土取り穴16	30.7		(3.5)	口縁部10	7.5YR6/4にぶい橙	弥生
33	弥生土器	甕	土取り穴18	25.6		(3.5)	口縁部10	7.5YR7/3にぶい橙	弥生
34	弥生土器	壺 底部	土取り穴18		10.0	(3.5)	底部80	7.5YR8/2灰白	弥生
35	緑釉陶器	三足盤	土取り穴16	14.8		(2.3)	口縁部10	胎)5Y7/1灰白 釉)5Y7/2灰白	平安
36	灰釉陶器	壺	土取り穴16	—	13.7	(3.5)	底部20	2.5Y7/1灰白	平安
37	土師器	皿N小	土取り穴16	8.9		1.4	25	5YR7/4にぶい橙	鎌倉～室町
38	土師器	皿N小	土取り穴16	9.2		1.7	40	10YR7/2にぶい橙	鎌倉～室町
39	土師器	皿N中	土取り穴16	9.8		(2.1)	15	7.5YR7/4にぶい橙	鎌倉～室町
40	土師器	皿N中	土取り穴16	11.0		1.9	20	7.5YR7/4にぶい橙	鎌倉～室町
41	土師器	皿N大	土取り穴16	12.4		1.9	20	10YR8/3浅黄橙	鎌倉～室町
42	土師器	皿N大	土取り穴16	12.4		2.8	10	7.5YR8/4浅黄橙	鎌倉～室町
43	土師器	皿S小	土取り穴16	7.6		2.1	60	10YR8/2灰白	鎌倉～室町
44	土師器	皿S小	土取り穴16	7.8		2.3	25	10YR8/1灰白	鎌倉～室町

番号	器種	器形	出土遺構	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存(%)	色調	時代
45	土師器	皿S小	土取り穴16	8.2		2.2	60	7.5YR8/2灰白	鎌倉～室町
46	土師器	皿S中	土取り穴16	10.8		3.1	40	10YR8/2灰白	鎌倉～室町
47	土師器	皿S大	土取り穴16	12.6		3.2	35	10YR8/1灰白	鎌倉～室町
48	土師器	皿S大	土取り穴16	13.2		3.2	25	10YR8/2灰白	鎌倉～室町
49	白色土器	高杯	土取り穴16	—		(10.7)	脚部80	10YR8/1灰白	鎌倉～室町
50	瓦器	三足羽釜	土取り穴16	—		(20.0)	脚部100	N4/0灰	鎌倉～室町
51	瓦器	椀	土取り穴16	13.1		(3.9)	口縁部15	N6/0灰	鎌倉～室町
52	瓦器	椀	土取り穴16	—	4.6	(1.8)	底部60	N4/0灰	鎌倉～室町
53	瓦器	椀	土取り穴16	13.8	5.0	5.0	25	N5/0灰	鎌倉～室町
54	瓦器	羽釜	土取り穴16	27.6		(5.1)	30	N4/0灰	鎌倉～室町
55	瓦器	鍋	土取り穴16	26.7		(4.4)	30	N3/0暗灰	鎌倉～室町
56	輸入 白磁	皿	土取り穴16	12.8		(2.6)	口縁部10	胎)N8/0灰白 釉)5Y8/1灰白	鎌倉～室町
57	輸入 青磁	椀	土取り穴16	—	4.2	(2.6)	底部100	胎)2.5Y7/1灰白 釉)2.5GY7/1明オリーブ灰	鎌倉～室町
58	輸入 青磁	壺	土取り穴16	10.0		(4.4)	口縁部20	胎)10Y8/1灰白 釉)10Y7/2灰白	鎌倉～室町
59	輸入 高麗青磁	壺	土取り穴16	—		(5.2)	小片	胎)N7/0灰白 釉)2.5YG6/1オリーブ灰	鎌倉～室町
60	施釉陶器	椀	土取り穴16	—	4.6	(4.4)	40	胎)10YR8/1灰白 釉)5B7/1明青灰	江戸
61	施釉陶器	鍋	土取り穴16	13.7		(4.0)	15	胎)N8/0灰白 釉)5YR4/3にぶい赤褐	江戸
62	施釉陶器	鉢	土取り穴16	26.4		(3.7)	口縁部10	胎)7.5YR6/4にぶい橙 釉)5YR4/4にぶい赤褐	江戸
63	磁器(色絵)	小鉢	土取り穴16	6.9		(2.2)	20	胎)N8/0灰白	江戸
64	磁器(染付)	椀	土取り穴16	—	2.7	(1.6)	底部100	N8/0灰白	江戸
65	磁器(染付)	椀	土取り穴16	9.8		(3.6)	口縁部15	胎)N8/0灰白	江戸
66	磁器(染付)	椀	土取り穴16	10.6		(3.7)	口縁部10	胎)N8/0灰白	江戸
67	磁器(染付)	椀	土取り穴16	—	4.0	(2.6)	底部30	胎)N8/0灰白	江戸
68	磁器(染付)	椀	土取り穴16	10.8		(3.5)	口縁部10	胎)N8/0灰白	江戸
69	磁器(染付)	椀	土取り穴16	9.8		(5.6)	口縁部20	胎)N8/0灰白	江戸
70	焼締陶器	壺	土取り穴16	36.4		(2.7)	口縁部10	5YR4/3にぶい赤褐	江戸
71	焼締陶器	播鉢	土取り穴16	—		(6.5)	口縁部5	5YR5/4にぶい赤褐	江戸
72	焼締陶器	播鉢	土取り穴16	—		(2.8)	底部5	5YR4/2灰褐	江戸
73	緑釉陶器	壺	土取り穴17	7.8		(2.5)	20	胎)2.5Y6/1黄灰 釉)5Y7/2灰白	平安
74	土師器	皿Ac	土取り穴17	5.2		1.3	95	10YR8/0灰白	鎌倉～室町
75	土師器	皿Ac	土取り穴17	6.8		1.4	60	10YR8/2灰白	鎌倉～室町
76	土師器	皿N小	土取り穴17	8.0		1.2	100	5YR7/6橙	鎌倉～室町
77	土師器	皿N小	土取り穴17	8.4		1.3	50	10YR7/2にぶい黄橙	鎌倉～室町
78	土師器	皿N小	土取り穴17	8.4		1.4	90	7.5YR8/4浅黄橙	鎌倉～室町
79	土師器	皿N小	土取り穴17	7.9		2.2	40	10YR8/2灰白	鎌倉～室町
80	土師器	皿N小	土取り穴17	7.9		2.3	80	7.5YR8/4浅黄橙	鎌倉～室町
81	土師器	皿N中	土取り穴17	9.4		2.0	25	7.5YR7/4にぶい橙	鎌倉～室町
82	土師器	皿N大	土取り穴17	11.6		(2.7)	20	7.5YR7/3にぶい橙	鎌倉～室町
83	土師器	皿N大	土取り穴17	12.6		2.8	25	7.5YR8/3浅黄橙	鎌倉～室町
84	土師器	皿N大	土取り穴17	12.1		1.9	30	5YR7/4にぶい橙	鎌倉～室町
85	土師器	皿N大	土取り穴17	13.0		2.1	25	7.5YR7/4にぶい橙	鎌倉～室町
86	土師器	皿N大	土取り穴17	12.5		2.0	25	5YR7/4にぶい橙	鎌倉～室町
87	土師器	皿N大	土取り穴17	13.4		2.1	20	10YR8/3浅黄橙	鎌倉～室町

番号	器種	器形	出土遺構	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存(%)	色調	時代
88	土師器	皿S小	土取り穴17	7.4		2.2	80	10YR8/1灰白	鎌倉～室町
89	土師器	皿S中	土取り穴17	10.5		2.9	95	10YR8/1灰白	鎌倉～室町
90	土師器	皿S大	土取り穴17	13.5		3.3	20	10YR8/2灰白	鎌倉～室町
91	瓦器	椀	土取り穴17	13.4	5.0	4.9	90	N6/0灰	鎌倉～室町
92	瓦器	盤	土取り穴17	—		(4.2)	口縁部10	7.5YR6/2灰褐	鎌倉～室町
93	瓦器	羽釜	土取り穴17	—		(7.2)	脚部60	N5/0灰	鎌倉～室町
94	瓦器	香炉か	土取り穴17	—			脚部60	N5/0灰	鎌倉～室町
95	瓦器	羽釜	土取り穴17	24.8		(7.4)	口縁部20	N5/0灰	鎌倉～室町
96	土師器	羽釜	土取り穴17	29.0		(6.0)	口縁部10	7.5YR8/2灰白	鎌倉～室町
97	緑釉陶器	椀	土取り穴18	—	5.9	(1.7)	底部25	胎)10YR8/2灰白	平安
98	緑釉陶器	皿	土取り穴18	—	8.6	(1.8)	底部40	胎)2.5Y7/1灰白	平安
99	灰釉陶器	椀	土取り穴18	—	7.1	(1.7)	80	N7/0灰白	平安
100	土師器	甕	土取り穴18	23.3		(5.2)	口縁部10	10YR8/1灰白	平安
101	土師器	皿Ac	土取り穴18	5.3		1.0	100	10YR8/1灰白	鎌倉～室町
102	土師器	皿Ac	土取り穴18	6.0		1.5	75	10YR8/1灰白	鎌倉～室町
103	土師器	皿Ac	土取り穴18	8.8		(1.1)	20	10YR4/1灰褐(内) 10YR7/2にぶい黄橙(外)	鎌倉～室町
104	土師器	皿N小	土取り穴18	(8.0)		1.2	80	7.5YR7/4にぶい黄橙	鎌倉～室町
105	土師器	皿N小	土取り穴18	(8.4)		1.2	95	7.5YR7/4にぶい橙	鎌倉～室町
106	土師器	皿N小	土取り穴18	8.4		1.2	75	7.5YR6/6橙	鎌倉～室町
107	土師器	皿N小	土取り穴18	8.0		1.5	50	10YR7/3にぶい黄橙	鎌倉～室町
108	土師器	皿N小	土取り穴18	7.6		1.5	25	10YR7/4にぶい黄橙	鎌倉～室町
109	土師器	皿N小	土取り穴18	(8.4)		2.0	25	7.5YR7/4にぶい黄橙	鎌倉～室町
110	土師器	皿N中	土取り穴18	9.6		2.1	25	7.5YR7/4にぶい橙	鎌倉～室町
111	土師器	皿N大	土取り穴18	(12.0)		2.0	15	7.5YR7/4にぶい橙	鎌倉～室町
112	土師器	皿N大	土取り穴18	12.8		(2.4)	25	10YR7/2にぶい橙	鎌倉～室町
113	土師器	皿N大	土取り穴18	13.2		(2.3)	25	7.5YR6/4にぶい橙	鎌倉～室町
114	土師器	皿N大	土取り穴18	13.4		(2.0)	20	7.5YR7/4にぶい橙	鎌倉～室町
115	土師器	皿N大	土取り穴18	14.6		2.2	70	10YR7/2にぶい黄橙	鎌倉～室町
116	土師器	皿N大	土取り穴18	12.4		2.5	20	7.5YR7/4にぶい橙	鎌倉～室町
117	土師器	皿N大	土取り穴18	12.6		(3.0)	15	7.5YR7/4にぶい橙	鎌倉～室町
118	土師器	皿N大	土取り穴18	12.6		2.8	20	7.5YR7/4にぶい橙	鎌倉～室町
119	土師器	皿N大	土取り穴18	13.2		(2.6)	20	7.5YR7/4にぶい橙	鎌倉～室町
120	土師器	皿S小	土取り穴18	7.6		1.9	100	10YR8/1灰白	鎌倉～室町
121	土師器	皿S小	土取り穴18	8.3		2.0	100	10YR8/2灰白	鎌倉～室町
122	土師器	皿S小	土取り穴18	8.8		2.2	50	10YR8/1灰白	鎌倉～室町
123	土師器	皿S中	土取り穴18	9.0		2.5	20	7.5YR8/3浅黄橙	鎌倉～室町
124	土師器	皿S中	土取り穴18	10.2		2.2	25	10YR8/2灰白	鎌倉～室町
125	土師器	皿S中	土取り穴18	10.4		2.9	90	10YR8/2灰白	鎌倉～室町
126	土師器	皿S大	土取り穴18	12.6		3.3	35	7.5YR8/2灰白	鎌倉～室町
127	土師器	皿S大	土取り穴18	12.8		(2.9)	35	10YR8/1灰白	鎌倉～室町
128	土師器	皿S大	土取り穴18	13.6		(3.2)	35	10YR8/1灰白	鎌倉～室町
129	瓦器	盤	土取り穴18	—		(3.8)	口縁部10	10YR4/1褐灰	鎌倉～室町
130	瓦器	火鉢	土取り穴18	—		(8.2)	口縁部5	N5/6灰	鎌倉～室町
131	瓦器	鍋	土取り穴18	28.1		(4.0)	口縁部20	10YR5/1褐灰	鎌倉～室町
132	施釉陶器	燈明皿	土取り穴18	5.0		(1.1)	20	胎)2.5Y8/2灰白 釉)2.5Y8/3淡黄	江戸

番号	器種	器形	出土遺構	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存(%)	色調	時代
133	施釉陶器	香炉か	土取り穴18	12.2		(4.3)	20	胎)7.5YR8/2灰白、 7.5YR3/1黒褐 釉)7.5YR8/2灰白	江戸
134	磁器(染付)	鬚盥	土取り穴18	10.8		(3.7)	20	胎)N9/0白 釉)N9/0白	江戸
135	磁器(染付)	椀	土取り穴18	7.6		(2.0)	口縁部20	胎)N9/0白	江戸
136	磁器(色絵)	椀	土取り穴18	8.4		(1.6)	口縁部20	胎)5Y8/1灰白 釉)5Y8/1灰白	江戸
137	焼締陶器	播鉢	土取り穴18	—	12.0	(4.6)	底部10	2.5YR4/2灰赤	江戸
138	焼締陶器	甕	土取り穴18	40.0		(3.0)	口縁部5	2.5Y3/1黒褐	江戸
139	土師器	皿Ac	土取り穴19	4.4		1.0	50	10YR8/1灰白	鎌倉～室町
140	土師器	皿Ac	土取り穴19	4.7		1.0	90	10YR8/1灰白	鎌倉～室町
141	土師器	皿Ac	土取り穴19	5.4		1.1	100	10YR8/1灰白	鎌倉～室町
142	土師器	皿N大	土取り穴19	11.8		2.0	10	10YR8/3浅黄橙	鎌倉～室町
143	土師器	皿N大	土取り穴19	11.8		2.0	20	7.5YR8/4浅黄橙	鎌倉～室町
144	土師器	皿N大	土取り穴19	12.0		2.0	15	7.5YR8/3浅黄橙	鎌倉～室町
145	土師器	皿N大	土取り穴19	12.2		(2.1)	15	7.5YR8/3浅黄橙	鎌倉～室町
146	土師器	皿S小	土取り穴19	7.2		1.9	35	10YR8/1灰白	鎌倉～室町
147	土師器	皿S小	土取り穴19	8.3		2.3	50	10YR8/2灰白	鎌倉～室町
148	土師器	皿S大	土取り穴19	11.0		3.0	25	10YR8/2灰白	鎌倉～室町
149	須恵器	鉢	土取り穴19	—		(4.6)	口縁部10	N6/0灰	鎌倉～室町
150	瓦器	盤	土取り穴19	—		(3.7)	口縁部5	2.5YR7/6橙	鎌倉～室町
151	瓦器	羽釜 脚部	土取り穴19	—		(7.2)	脚部40	N4/0灰	鎌倉～室町
152	瓦器	羽釜	土取り穴19	—		(3.2)	口縁部10	N4/0灰	鎌倉～室町
153	施釉陶器	大皿 底部	土取り穴19	—		(1.4)	小片	胎)N6/0灰	江戸
154	施釉陶器	鍋	土取り穴19	18.5		(3.1)	口縁部10	胎)10R6/2灰黄褐 釉)7.5YR5/4こぶい褐	江戸
155	施釉陶器	鍋	土取り穴19	17.6		(3.5)	口縁部15	胎)10Y8/1灰白 釉)2.5Y7/2灰黄	江戸
156	施釉陶器	ミニチュア 播鉢	土取り穴19	—	3.3	(1.2)	底部90	胎)2.5YR6/6橙 釉)2.5YR4/6赤褐	江戸
157	施釉陶器	灯明皿	土取り穴19	4.0	2.0	1.4	40	胎)2.5Y8/1灰白 釉)2.5Y7/2灰黄	江戸



# 圖 版





1 1区全景（西から）



2 1区土坑4（西から）



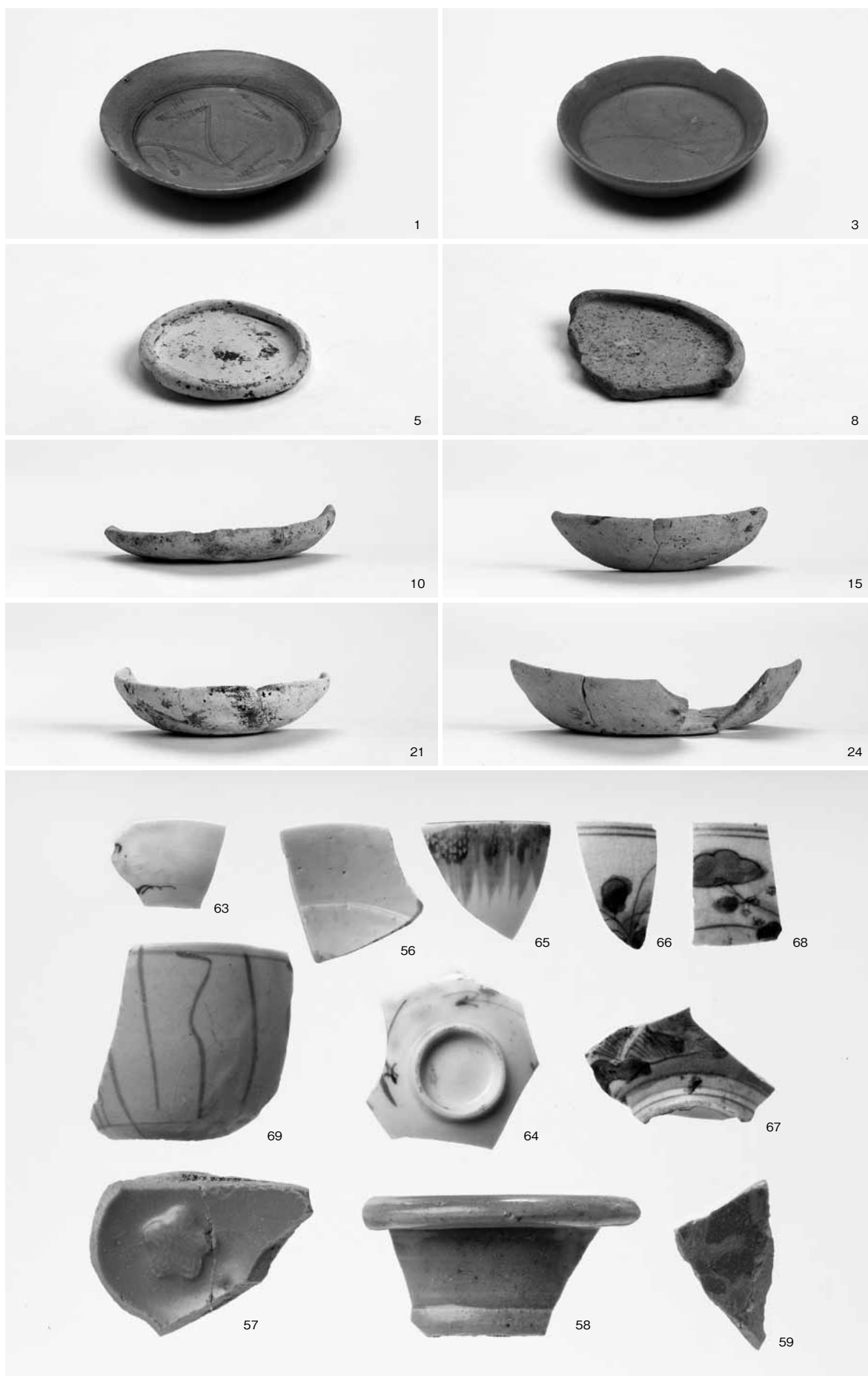
3 1区土坑4遺物出土状況（西から）



1 2区全景（北から）



2 2区東西セクション（北東から）



土坑4・8、土取り穴16出土土器

# 報 告 書 抄 録

ふりがな	へいあんきょうさきょうろくじょういちぼうななちょうあと							
書名	平安京左京六条一坊七町跡							
シリーズ名	京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告							
シリーズ番号	2017-5							
編著者名	李 銀眞							
編集機関	公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
所在地	京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1							
発行所	公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
発行年月日	西暦2017年11月30日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
へいあんきょうあと 平安京跡	きょうとししちぎょうく 京都市下京区 ちゅうどうじみぶがわちょう 中堂寺壬生川町  33番地	26100	1	34度 59分 48秒	135度 44分 42秒	2017年5月 8日～2017 年6月9日	376㎡	ホテル 建設工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
平安京跡	都城跡	弥生時代		弥生土器		鎌倉時代の土坑から同安窯系の青磁皿が4枚重なって出土した。調査区のほぼ全域にわたって江戸時代の土取り穴を検出した。		
		平安時代		土師器、緑釉陶器、灰釉陶器、瓦類、木製品				
		鎌倉時代 ～室町時代	土坑、ピット	土師器、須恵器、白色土器、灰釉陶器、瓦器、焼締陶器、輸入陶磁器、瓦類、石製品、金属製品				
		江戸時代	土取り穴	焼締陶器、施釉陶器、染付、色絵、磁器、輸入陶磁器、金属製品、伏見人形				

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2017-5

## 平安京左京六条一坊七町跡

発行日 2017年11月30日

編集  
発行 公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

住所 京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1  
〒602-8435 TEL 075-415-0521  
<http://www.kyoto-arc.or.jp/>

印刷 三星商事印刷株式会社

住所 京都市中京区新町通竹屋町下る弁財天町298番地  
〒604-0093 TEL 075-256-0961